



第2部 ■

近10年の歩み

2015 (平成27年)

近10年の歩み

4 / B館3F、4Fを生活科学学科生活環境専攻の施設、E館を幼児教育学科の施設としてリニューアル。

生活情報専攻1、2回生にタブレットPCの貸し出し開始。

図書館に併設されていた「津村節子文学室」の資料が福井県立図書館へ移管され、その後、「絵本のへや」として運用。

5 / 福井市と仁愛女子短期大学との「包括的な連携に関する協定」を締結。

6 / 校舎改築工事(C館増築)の起工式。

10 / 仁愛女子短期大学50周年記念式典を挙行・記念公演「秋川雅史コンサート」開催。

第50回仁短祭「Fiesta Amour」を開催。

特別追弔会を本学体育館で挙行。

生活科学学科企画 シンポジウム「地域が育む女子のチカラ～福井型地方創生にむけて～」をAOSSA8階で開催。

幼児教育学科企画 劇団四季ファミリーミュージカル「人間になりたかった猫」をフェニックスプラザにて開催。

同窓会記念コンサート「第21回くらいすコンサート」をハーモニーホールふくいで開催。



開学50周年記念公演



福井市との包括連携協定調印式



特別追弔会

2016

(平成28年)

3 / 7つの講義室のほかカフェテリア・学生ホールからなる新C館完成。オープニングセレモニーを開催。

C館増築に伴い図書館の入口などレイアウトを一部変更。

4 / 島田貢明氏が副学長として就任。

生活科学学科生活環境専攻を生活デザイン専攻に改称。

ラーニング・commonsをC館2階に開設。

大学連携センター「Fスクエア」がAOSSAでオープン。

7 / 第49回北陸三県私立短期大学体育大会を本学主管で開催。

10 / B館(1・2F)を事務局等、管理スペースとしてリニューアル。

A館の解体がはじまる。

12 / 学生会と大学祭実行委員主催の第1回「JINTANSAI IN SHIWASU」を本学カフェテリアで開催。



学生ホール+カフェテリア



ラーニング・commons



第49回 北陸三県私立短期大学体育大会



第1回「JINTANSAI IN SHIWASU」

2017

(平成29年)

- 3 / 仁愛女子短期大学キャンパス・リニューアル完成セレモニーを挙行。
- 4 / キャンパス・リニューアルに伴い仁愛女子短期大学入学式を本学体育館で挙行。
- 6 / 「森田・仁愛女子短期大学連携協議会」を本学で開催。
- 10 / 仁愛女子短期大学同窓会「六和会」創立50周年記念行事開催。
記念講演会として金田一秀穂氏「日本一受けたい日本語授業」を本学体育館で開催。



リニューアル完成セレモニー



仁愛女子短期大学同窓会「六和会」創立50周年記念式典



森田・仁愛女子短期大学連携協議会



本学体育館で入学式を挙行

2018 (平成30年)

2 / 37年ぶりの大雪で授業を休講。

3 / 平成30年度文部科学省私立大学研究ブランディング事業に申請。

157校中20校が採択され、短期大学では本学1校のみ。

5 / 永平寺町と子育て支援や食を通した健康づくりで互いに協力する「包括的連携協定」を締結。

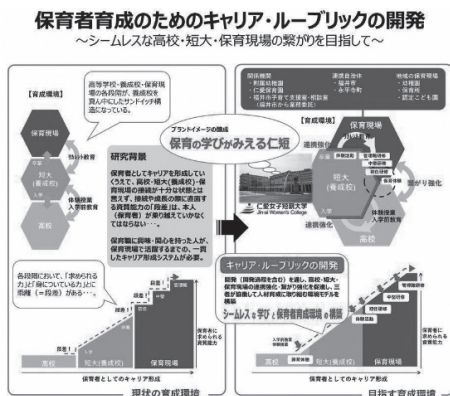
飯田女子短期大学と相互評価を実施。

8 / 附属図書館に「自動貸出・返却機」を導入。

9 / F館耐震改築工事が完了。

相互評価の訪問調査のため、9月4日に飯田女子短大を訪問、9月11日は本学にて調査を実施。

10 / 「福井しあわせ元気国体」・「福井しあわせ元気大会」に多くの学生がボランティアとして参加。



平成30年度文部科学省
私立大学研究ブランディング事業に採択



永平寺町と包括的連携協定締結



「福井しあわせ元気国体」のサポートボランティアとして参加



F館改築工事了

2019

(令和元年)

3 / 『仁愛女子短期大学・飯田女子短期大学 相互評価報告書』を発行。

4 / 「学生部」を「総合学務センター」とし、教務課・学生生活課を学び支援課に、就職支援課をキャリア支援課に、入試広報課を入学・地域支援課に名称を変更。

地域活動実践センターを入学・地域支援課に移行。

8 / 文部科学省私立大学研究ブランディング事業の一環として「保育現場体験ツアー」を開催。高校生48名参加。

10 / 県内全ての大学と短大、高専による連携協議体「FAAふくいアカデミックアライアンス」が発足。



「元気体操21」の動画をプロデュース



練り物商品で考案したレシピを学祭で販売



保育現場体験ツアー

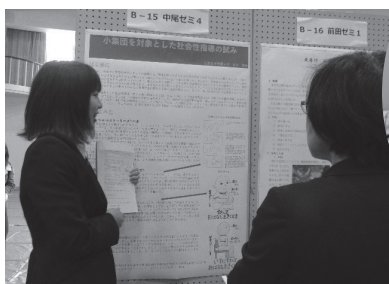
2020

(令和2年)

- 1 / 福井市保育研究合同発表会を仁愛女子短期大学で開催。
- 2 / 禿了修氏(学園理事長)が県政功労者知事表彰を受賞。
禿了滉氏(学園長)が2月18日(火)逝去(享年94歳)。
- 3 / 新型コロナ感染拡大防止のため、卒業式中止。
- 4 / 新型コロナ感染拡大防止のため、入学式中止。前期授業はインターネットを活用した遠隔授業で実施。
生活科学学科生活デザイン専攻の入学定員変更(新入学定員30名)
生活科学学科生活情報専攻の入学定員変更(新入学定員70名)
幼児教育学科の入学定員変更(新入学定員100名)
- 5 / 遠隔授業のための受講環境整備への支援と自宅外学生への緊急支援を開始。
- 6 / 学園で新型コロナ感染症に伴う学生・生徒等支援のための寄付募集を開始。
実験や調理実習などの授業に限定して対面授業を再開。
- 9 / 後期授業を、①授業全てを対面授業、②対面授業と遠隔授業で実施、③授業全てを遠隔授業で実施の3種類で実施。
- 10 / 仁短祭の参加者を学生に限定し、オンライン参加と学内参加のハイブリッド形式で開催。



福井市保育研究合同発表会



後期より対面授業を再開



コロナに負けず、仁短祭を開催



ハイブリット形式で開催した仁短祭

2021

(令和3年)

3 / 一般財団法人大学・短期大学基準協会による認証評価において「適格」と認定される。

第55回卒業式を新型コロナ感染拡大防止のため、学生代表者のみの出席とし、ライブ中継によるリモート形式で開催。

4 / 生活科学学科生活デザイン専攻及び生活情報専攻を統合し、生活情報デザイン専攻を設置。

新型コロナ感染拡大防止のため入学式は会場を学内で分散しリモート形式で開催。

5 / 新型コロナウイルス禍により延期されていた「故 禿了滉学園長を偲ぶ会」を仁愛大学体育館にて開催。

6 / 仁愛保育園移転・改築の起工式を挙行。

学生・教職員等を対象とした新型コロナ・ワクチン職域接種の1回目の実施。

7 / 学生・教職員等を対象とした新型コロナ・ワクチン職域接種の2回目の実施。

9 / 後期授業より対面授業を人数の制限や席を間引いた形で再開。

栄養士養成施設指導調査の実施。

10 / 新型コロナ感染防止対策を十分に講じた上で、本学学生に限定した仁短祭を開催。

11 / 産学官金による連携組織「未来協働プラットフォームふくい」設立会議に参加。



「故 禿了滉学園長を偲ぶ会」



リモートによる卒業式



参加者を本学学生に限定した仁短祭

2022

(令和4年)

- 2 / 文部科学省私立大学研究ブランディング事業成果報告会をオンライン配信にて実施。全国から70名が参加。
- 3 / 仁愛保育園が移転・改築完成。使い初め式を挙行政。
第56回卒業式を卒業生と教職員のみで本学体育館にて挙行政。
学生・教職員等を対象とした新型コロナ・ワクチン職域接種の3回目を本学体育館で実施。
- 4 / 本学体育館で入学式(学生と教職員のみ)を挙行政。
新型コロナ感染拡大防止のため中止していた公開講座を「対面形式」または「オンライン(ZOOM)形式」で開講。
- 5 / 開学記念日にコロナ禍やウクライナ情勢の中、人を思いやる時間を持つため、千羽鶴を折る企画を実施。
限定ランチが100円で楽しめる「仁短ランチデー」がスタート。
- 10 / 本学学生と教職員に加え、学生の家族、高校生の来場も可能として、第57回仁短祭を開催。



仁愛保育園が短期大学の隣に移転



本学体育館で入学式(学生と教職員のみ)



仁短ランチデー



第57回仁短祭

2023

(令和5年)

- 2 / 令和6(2024)年度以降の食物栄養専攻の学生募集を停止することを発表。
- 3 / 第57回の卒業式は保護者(1名のみ)も出席し本学体育館で挙行。
「仁愛大学・仁愛女子短期大学リポジトリ」の提供開始。
- 4 / 「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」に対応した「Jin-tan 数理データサイエンスAI教育プログラム」(全学対象)を実施。
福井県の「プロジェクト応援型ふるさと納税制度」の利用開始。
本学体育館で入学式(保護者も参加)を挙行。
Web履修登録を開始。
生活情報デザイン専攻がJin-tan DXプログラムの実施を決定。
- 5 / 新型コロナウイルス感染症の5類移行を受け、通常授業の再開。
- 9 / 短大・幼稚園・保育園による合同避難訓練の実施。
生活情報デザイン専攻の2回生が「国際理解」の授業として台湾研修実施。
- 10 / 4年ぶりに入場制限なしで、第58回仁短祭を開催。
- 11 / 禿了修氏(学園理事長)が藍綬褒章受章。



短大・幼稚園・保育園による合同避難訓練



台湾研修旅行(生活情報デザイン専攻)



第58回仁短祭。4年ぶりに入場制限なしで開催



第57回卒業式は保護者(1名のみ)も出席し挙行

2024

(令和6年)

- 1 / 令和6年1月1日に能登半島地震が発生。
学生会が中心となり能登半島地震募金活動(1月22日～26日)を行い、183,252円を日本赤十字社が実施する能登半島地震災害義援金に寄付。
- 3 / 第58回の卒業式(保護者も参加)を本学体育館で挙行。式後の卒業パーティを学内カフェテリアで開催。
- 4 / 生活情報デザイン専攻の3コース制(地域ビジネス実践コース・オフィス実務コース・デジタル表現コース)をスタート。
2025年度より幼児教育学科が3コース制(こども探究コース・表現コース・心理コース)の導入を決定。
- 6 / 包括連携協定を結んでいる永平寺町と幼児教育学科が園児への適切な接し方などをまとめた「不適切な保育防止のためのガイドライン」を作成。
- 8 / ブランディング戦略部会主催のブランディングワークショップを8月、9月に実施。
- 10 / 令和7(2025)からの福井仁愛学園×福井県の「福井県で保育者を目指す学生応援!PROJECT」が決定。



能登半島地震の揺れて散乱する図書(附属図書館)



「保育の資質向上研修会」永平寺町にて



第58回卒業式



カフェテリアでの卒業パーティ

1 生活科学学科

1) 学科の歩みと現状

① 10年を振り返って

昭和40(1965)年に家政科として開学した本学科は、平成2(1990)年に生活科学学科へ名称を変更し、今年2025年で開学60周年を迎えた。生活科学学科の教育目的は、「生活に関する科学的理解を基礎とし、各専攻課程分野における専門的知識と技術の教授研究を通して、心豊かで有能な人材を育成する」ことである。平成27(2015)年度における本学科は、生活環境専攻・生活情報専攻・食物栄養専攻の3専攻体制であった。平成28(2016)年度に生活環境専攻は、生活デザイン専攻へ改称し、芸術系とは異なる実践的なデザインを学ぶことを明確にした。令和2(2020)年度、生活デザイン専攻の新入学定員を30名、生活情報専攻の新入学定員を70名へ変更した。また、令和2(2020)年度に短期大学基準協会による認証評価の結果、適格と認定された。令和3(2021)年度、生活デザイン専攻及び生活情報専攻を統合し、生活情報デザイン専攻を設置した。令和7(2025)年3月に食物栄養専攻を廃止し、平成21(2009)年度に仁愛大学人間生活学部(健康栄養学科・子ども教育学科)を開設した後も継続した福井県における栄養士養成施設の役目を終えた。

② 学科の三つの方針と教育課程

本学科の三つの方針の「卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー：DP)」及び「教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー：CP)」は、平成29(2017)年度入学生の改訂時から本学科全体と各専攻に分離して定め、教養科目と学科共通科目の教育課程により本学科の学修成果が身につく、各専攻科目の教育課程により各専攻の学修成果が身につくよう設計した。また、本学科の学修成果のうち、協働性・主体性・多様性の各項目は、学園是である和敬・精進・反省と対応づけた。

令和6(2024)年度入学生から学科ごとに教養科目を編成することに変更したため、専攻一つの学修成果と教育課程(教養科目・生活科学基盤科目・専攻科目)

のDP及びCPに改訂した。

令和5(2023)年度入学生から「Jin-tan 数理データサイエンス AI 教育プログラム」の受講を全学必修とし、教養必修科目「情報メディア入門」及び「データサイエンス入門」を取得した学生に修了証を授与している。「データサイエンス入門」のうち、社会での実例を題材とした「データを読む、説明する、扱う」回は、各専攻の専門性に合致した内容にしている。このプログラムは、文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」に、令和6(2024)年度認定された。

③ 開学60周年の節目

食物栄養専攻を閉じる節目として、令和7(2025)年1月8日、アッセンブリーアワー「讃仰会」の特別企画「福井の偉人 石塚左玄から学ぶ食育シンポジウム」を生活科学学科が企画し、全学生に食育の大切さを伝えた。このシンポジウムの成果を基に、令和7(2025)年度の生活科学学科基本方針に「ここから、ひらくエージェンシー。～身土不二な学びからの創造～」を掲げた。さらに、令和7(2025)年10月に開催する開学60周年記念シンポジウム[生活科学学科企画]のタイトルを「地域で学ぶ探究のすゝめ：身土不二な学びでひらくエージェンシー」とした。身土不二とは、石塚左玄の弟子が食育を広げる際に使用した仏教用語であり、人間の身体と生きる土地・自然は一体であるという考えである。身土不二な学びには、地域に根ざした短期大学として、学生が地域で学び、地域に合った人材に育ち、地域へ貢献する思いを込めている。エージェンシー(変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力)は OECD の学びの羅針盤における中心概念であり、生活科学学科で身につけるべき能力の一つである。本学の開学60周年を記念し、これまでの教育・研究活動の成果を地域社会に広く発信するとともに、未来に向けた本学のビジョンを共有する機会とする。特に、地域との連携強化や人材育成の重要性について改めて考える場としたい。

2) 各専攻の歩みと現状

① 生活環境専攻および生活デザイン専攻

ア 近10年の歩み

平成12(2000)年に生活科学専攻から改称した生活環境専攻の教育目的は、「豊かな生活環境を創造する能力を有する人材を養成するための教育研究を行う」ことである。生活環境専攻は、平成28(2016)年度入学生から生活デザイン専攻へ改称した。生活デザイン専攻の教育目的は、「デザインの視点から生活環境を理解し、創造する能力を有する人材を養成するための教育研究を行う」ことである。

生活デザイン専攻の専攻科目は、デザインの基礎科目、デザインの応用科目(環境デザイン科目・ビジュアルコミュニケーションデザイン科目・ファッションデザイン科目・プロダクトデザイン科目)、総合科目からなり、専攻独自の「学修成果の評価」として卒業制作展の作品を定めていた。

生活環境専攻の卒業制作展は、平成28(2016)年2月に「TURNーわたしの現在地。」、平成29(2017)年2月に「MAKUNOUCHI」を福井市美術館で開催した。生活デザイン専攻の卒業制作展は、平成30(2018)年2月に「Debut!」、平成31(2019)年2月に「平成が終わる、私が始まる。」、令和2(2020)年2月に「Re:Re 一斉送信、Dear ワタシ」を仁愛女子短期大学で開催した。新型コロナウイルス感染症の流行を考慮し、最後2カ年の卒業制作展は、令和3(2021)年2月に「Nomask28」、令和4(2022)年2月に「SEASON FINAL」をWeb上で開催した。



卒業制作展2016チラシ



卒業制作展2017チラシ



卒業制作展2018チラシ



卒業制作展2019チラシ



卒業制作展2020チラシ



卒業制作展2021チラシ



卒業制作展2022チラシ

デザイン遠足として、平成27(2015)年5月に21世紀美術館・柳宗理記念デザイン研究所を中心に金沢、平成28(2016)年4月に富山市ガラス美術館・富山県立近代美術館・D&Department TOYAMAを中心に富山、平成29(2017)年4月に鈴木大拙館・21世紀美術館を中心に金沢、平成30(2018)年4月に富山県美術館・富山市ガラス美術館・高岡市美術館を中心に富山のまちづくりやデザインを視察した。

デザイン研修旅行として、平成27(2015)年に新潟県越後妻有「大地の芸術祭」、平成28(2016)年に「瀬戸内国際芸術祭」、平成29(2017)年に「札幌国際芸術祭」、平成30(2018)年に「琵琶湖ビエンナーレ」、平成31(2019)年「瀬戸内国際芸術祭」を視察した。



デザイン研修旅行2016瀬戸内国際芸術祭

イ 地域社会との連携

福井県産業会館で開催された福井トヨタフェアの仁短コラボレーション企画として、平成27(2015)年5月に「じんたんたんタウン」、平成28(2016)年5月に「Next Tier」を展示した。

福井市のイベント「フクイ夢アート」において、平成27(2015)年及び平成28(2016)年10月、JSD(仁愛スモールデザイン)プロジェクトとして参加し、福井駅前を盛り上げた。

平成28(2016)年4月の大学連携センター「Fスクエア」オープニングフェスティバルにおいて、ファッションショー「マチをまとう」を開催した。また、Fスクエアのロゴマークに、学生のデザインが採用された。



じんたんたんタウン



JSD プロジェクト



マチをまとう

平成27・28(2015・2016)年 県内大学生等の定着推進事業の一環として、福井県産素材からファッションアイテムをつくり、福井の眼鏡とともにコーディネートし、卒業生と在学生在がモデルとなった冊子「en-ter」を発刊し、E&C ギャラリー等にて展覧会を開催した。



en-ter

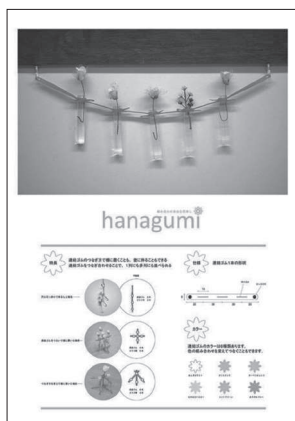
本学がある福井市森田地区とは、いろいろな授業で連携し、「森田エコキャンドル」の原画や作業スタッフ、「もりた夢駅」壁画ペイント・クイズラリー・ワークショップ、「もりのわフェスタ」等、まちづくりに参画している。

ウ コンクールでの受賞

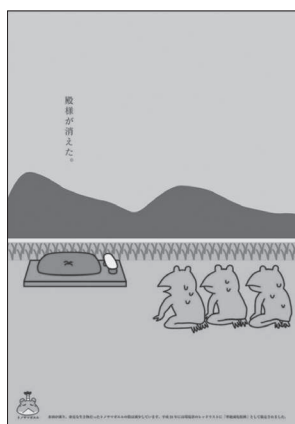
福井県デザインコンクールにおいて、平成27(2015)年 第40回は、グラフィックデザイン一般部門でグランプリを含む4作品、プロダクトデザイン一般部門でグランプリを含む2作品が入賞した。平成28(2016)年 第41回は、グラフィックデザイン一般部門でグランプリを含む3作品、プロダクト一般部門で1作品が入賞した。



グラフィック一般部門グランプリ
「share an umbrella」 2015



プロダクト一般部門グランプリ
「hanagumi」 2015



グラフィック一般部門グランプリ
「殿様が消えた。」 2016

全国きものデザインコンクールにおける一般手描きの部で、平成27(2015)年 第19回は、京都府知事賞・京都市長賞を受賞、他4名が入賞。平成28(2016)年 第20回は8名、平成29(2017)年 第21回は5名が入賞した。



一般手描きの部 京都府知事賞 2015



一般手描きの部 京都市長賞 2015

② 生活情報専攻

ア 近10年の歩み

生活情報専攻の教育目的は、「現代社会における実践的な情報管理能力を身につけた人材を養成するための教育研究を行う」ことである。本専攻の専攻科目は、情報科目、ビジネス実務科目、コミュニケーション科目、総合科目からなる。本専攻の教育方法として、学生のパフォーマンスを評価するアクティブラーニングの推進(Windows タブレットの活用、主体的な学びのためのアクティブラーニング、ラーニングポートフォリオを用いた学びの可視化、修学ポートフォリオを用いた学びの振り返り)、リアリティのある学びをめざす地域協働型学習の推進、学修成果の根拠としての資格取得の推進という3つを掲げていた。専攻独自の「学修成果の評価」として、ジェネリックスキルテスト、情報活用能力診断テスト、ラーニングポートフォリオの3つを定めていた。

本専攻の研修旅行として、北陸テクノフェアへ毎年1回生全員で参加している。



北陸テクノフェア

イ 地域社会との連携

平成27(2015)年度～平成28(2016)年度、仁愛女子短期大学(生活科学学科)と(協)春江ショッピングセンター(アルプラザアミ)とのパートナーシップ調査研究事業が締結され、「ビジネス実務演習」や「卒業研究」等において、「SNS への写真投稿とマーケティングニーズの再発見」等の共同研究が実施された。



パートナーシップ
調査研究事業

「コミュニケーション演習Ⅰ」では、本専攻独自の実践インターンシップ事業として、平成28(2016)年度～平成29(2017)年度は、福井市観光物産館「福福館」の指定管理者でもある株式会社大津屋と協働で、JR 福井駅前(ハピリンを中心)の活性化策についてタブレットを活用して調査等を行い、福井の観光 PR ポスターを制作し、コンペを実施した。最終的に選ばれた3つのポスターはハピリンに掲示された。平成30(2018)年度は、アオッサ5階にある福井市子ども家庭センター(子育て支援室・相談室)と協働で、子ども虐待防止(オレンジリボン運動)に関する普及啓発用カードのデザイン案を作成した。作成に際し、福井県産業会館で開催された親子イベント「すこやかふくい2018」にて、子育て実態調査(タブレットやスマートフォンを活用した、学生自らが考えた調査項目に基づくアンケート)を行った。令和元(2019)年度は、福井県県民安全課と連携し、女性の防犯対策啓発に関する事業提案を行った。事業提案に際し、福井市ショッピングモールの協力を得て、女性の防犯対策に関する意識調査を県民安全課と共同で実施。タブレットやスマートフォンを活用した、学生自らが考えた調査項目に基づくアンケートを行った。また、福井市新幹線プロモーション室との連携では、北陸新幹線福井開業を見据えたインターネット用 PR 動画の作成・提案を実

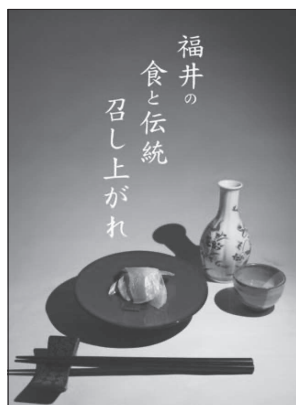
施。多くの報道機関に取り上げられ注目を集めたと同時に、作成したPR動画は実際に福井市の広報に活用された。令和2(2020)年度は、福井市広報課と連携し、「リアルローカリズムつながる広げる事業」にて、福井市の魅力を伝えるCM動画を作成した。CM作成に際し、全国から公募したシナリオから3本を選定し、えちぜん鉄道等の撮影協力も得ながら、学生が企画・出演・撮影・編集を実施した。これら作成したCM動画は福井市YouTubeチャンネルでの広報、ハピリン(ハピテラス)の大型モニター等での上映をはじめ、様々な福井市のイベントにて活用された。

平成28(2016)年度、澤崎ゼミ2チーム8名と1回生3名が福井大学学生10名とともに、永平寺の「学生のまち条例」の制定に取り組んだ。

平成29(2017)年度～平成30(2018)年度、福井県内で活躍する女性のPR事業では、「日本語表現演習I」と連携したラジオ番組企画や「キャリアプランニング」及び「卒業研究」と連携したロールモデルサイト制作を実施した。



福井の観光 PR ポスター2016



福井の観光 PR ポスター2018



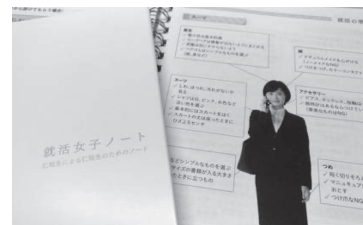
子ども虐待防止(オレンジリボン運動)

澤崎ゼミが中心となり、2015年4月に発生したネパール地震の支援活動を数年にわたり実施し、平成30(2018)年3月には、ネパール山岳地域の小学校にて日本語教育のボランティア活動を行った。



ネパールでのボランティア活動

平成30(2018)年度の卒業研究では、澤崎ゼミの1チームがプラン「就活女子ノート2 NextStage～学生よし、企業よし、地域よしの三方よしを実現する魔法のアイテム～」で「若者チャレンジプランコンテスト2028」に採択、澤崎ゼミの別チームがプログラム「福井から世界とつながるワークショップ」で福井県環境政策課「若手環境リーダー育成事業」に採択、田中ゼミの1チームが事業「親と子どものためのマインドフルネス」で「越前市地域貢献活動支援補助金」に採択された。



就活女子ノート2 NextStage



福井から世界とつながるワークショップ



親と子どものためのマインドフルネス

令和元(2019)年度～令和3(2021)年度、福井県の補助金を活用し、福井県内・県外で広く活躍する県内企業を動画でPRする事業を福井商工会議所と共同で実施。「企業研究」及び「卒業研究」とも連動したキャリア教育を実現している。

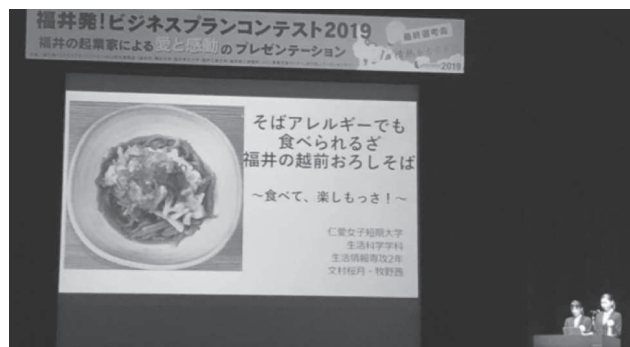
令和3(2021)年度、足羽神社と取り組んだ非接触型おみくじのプロジェクトは、コロナ禍ということもあり、多くの報道機関に取り上げられ、学生が地域とともに学ぶ本専攻の特色を県内に広く周知する機会となった。



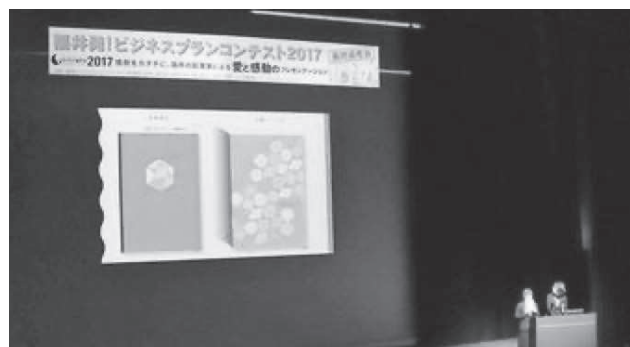
非接触型おみくじアプリ

ウ コンクールでの受賞

「ビジネス実務演習Ⅰ・Ⅱ」における企画書作成演習として応募している「福井発!ビジネスプランコンテスト」では、令和元(2019)年度は「そばアレルギーでも食べられるぞ、福井の越前おろしそば～食べて、楽しもっさ!!～」が学生の部 準グランプリ(及びスポンサー賞)、令和3(2021)年度は「紙でできたエコタブレット「KAMI タブ」～SDGsも意識した紙リサイクルな神タブレット～」が学生の部 奨励賞(及びスポンサー賞)を受賞した。また、「卒業研究」の一環として、平成29(2017)年度は「就活女子ノートー地域を元気にする魔法のアイテム」が一般の部 準グランプリ(及びスポンサー賞)、令和3(2021)年度は「神社仏閣おみくじネットワーク「おみくりん」～新しいライフスタイルに対応したスマホ非接触型おみくじで地域の絆を取り戻そう!～」が一般の部 グランプリを受賞した。



ビジネスプランコンテスト2019学生の部 準グランプリ



ビジネスプランコンテスト2017一般の部 準グランプリ

サー賞)、令和3(2021)年度は「紙でできたエコタブレット「KAMI タブ」～SDGsも意識した紙リサイクルな神タブレット～」が学生の部 奨励賞(及びスポンサー賞)を受賞した。また、「卒業研究」の一環として、平成29(2017)年度は「就活女子ノートー地域を元気にする魔法のアイテム」が一般の部 準グランプリ(及びスポンサー賞)、令和3(2021)年度は「神社仏閣おみくじネットワーク「おみくりん」～新しいライフスタイルに対応したスマホ非接触型おみくじで地域の絆を取り戻そう!～」が一般の部 グランプリを受賞した。

③ 生活情報デザイン専攻

ア 近10年の歩み

令和3(2021)年度、生活デザイン専攻及び生活情報専攻を統合した生活情報デザイン専攻の教育目的は、「多様な情報メディアの活用能力とデザインの視点を身につけ、豊かな情報環境の創造に資する人材を養成するための教育研究を行う」ことである。

本専攻の専攻科目は、情報技術科目、マネジメント技法科目、デザイン表現科目、総合科目からなる。総合科目は、情報技術・マネジメント技法・デザイン表現という3分野にわたる総合的な課題に対して、デザイン思考によりチームで問題を解決する場合に必要な能力を学ぶ。また、自らのキャリアを設計し実現する場合に必要な能力を学ぶ。本専攻の教育方法として、経験学習サイクルの活用、学習を支援するICTの活用(BYODの推奨、学習支援システムの活用、ラーニングポートフォリオを用いた学びの可視化)、学修成果の根拠としての資格取得の推進(全国大学実務教育協会「情報処理士」「ビジネス実務士」「秘書士」「ウェブデザイン実務士」、Jin-tan DX 人材育成プログラム)という3つを掲げている。専攻独自の「学修成果の評価」として、ジェネリックスキルテスト、情報活用力診断テスト、ラーニングポートフォリオの3つを定めている。令和6(2024)年度入学生から3コース制(地域ビジネス実践コース・オフィス実務コース・デジタル表現コース)を開始し、1年次後期からコースを選択する。

表1 2024年度カリキュラム（生活情報デザイン専攻 教養科目）

授業科目	単位数	講/演/実
人間と仏教I	②	講
人間と仏教II	①	演
社会活動実践	1	演
行動と心理	2	講
福井地域学	2	講
芸術と文化	2	講
国際理解	2	講
日本の文化	2	講
社会人基礎演習I	1	演
社会人基礎演習II	1	演

授業科目	単位数	講/演/実
社会人基礎演習III	2	演
健康と食	2	講
スポーツ実技	1	実
野外スポーツ	1	演
英語I	1	演
英語II	1	演
中国語	1	演
情報メディア入門	②	講
データサイエンス入門	①	講

表2 2024年度カリキュラム（生活情報デザイン専攻 専門科目）

授業科目	単位数	講/演/実
生活科学論	②	講
衣生活論	2	講
食生活論	2	講
住生活論	2	講
生活情報論	2	講
生活経営学	2	講
保育学	2	講
人間関係論	2	講
情報デザイン論	②	講
情報活用論	②	講
情報活用演習I	①	演
情報活用演習II	1	演
情報システムI	2	講
情報システムII	2	講
データサイエンス演習	1	演
プログラミングI	1	演
プログラミングII	1	演
プログラミングIII	1	演
マルチメディア演習I	1	演
マルチメディア演習II	1	演
Webデザイン	2	講
Web制作演習I	1	演
Web制作演習II	1	演
ビジネス実務総論	2	講
ビジネス実務演習I	1	演
ビジネス実務演習II	1	演
ビジネス実務演習III	1	演
フードビジネス	2	講
地域ビジネス論	2	講
ビジネス法務	2	講

授業科目	単位数	講/演/実
秘書概論	2	講
秘書実務演習	1	演
ビジネスイングリッシュ	2	講
会計学入門	2	講
簿記演習	2	演
会計情報論	2	講
コミュニティデザイン論	2	講
コミュニケーション演習	1	演
プロジェクト演習	1	演
プレゼンテーション演習	1	演
ビジネス文書演習	1	演
デザイン表現入門	②	講
色彩学	2	講
デッサン	1	演
グラフィックデザインI	1	演
グラフィックデザインII	1	演
グラフィックデザインIII	1	演
広告コミュニケーションデザイン	1	演
インテリアデザインI	2	講
インテリアデザインII	2	講
インテリアデザイン演習	1	演
テキスタイルデザイン	1	演
クラフトデザイン	1	演
キャリアプランニング	2	講
企業研究I	2	講
企業研究II	2	講
インターンシップ	1	演
マイプロジェクト	1	演
専門演習	2	演
卒業研究	②	演

本専攻の研修旅行として、「企業研究Ⅰ」において毎年1回生全員で北陸テクノフェアへ参加している。他には、1・2回生共に履修可能な「国際理解」において、台湾の企業を訪問しプレゼンテーションを通じた意見交換を行ったり、台湾の人々との触れ合いを通して歴史や文化を学んだりする台湾研修を実施している。



国際理解：台湾研修

イ 地域社会との連携

「マルチメディア演習Ⅰ」では、令和4(2022)年度は福井商工会議所との共同企画「学生がつくる駅前PR動画プロジェクト」の一環として、学生が福井駅周辺の店舗取材し、魅力を発信するためのPR動画を作成した。学生の活動の様子や学内外での成果発表会については各メディアで大きく取り上げられた。令和5(2023)～令和6(2024)年度はスーパーホームセンターヤマキ朝日店のPR動画制作に取り組み、完成した動画をYouTubeで公開した。



学生がつくる駅前PR動画プロジェクト成果発表会

毎年、福井県警察本部の「サイバー防犯ボランティア」として本専攻学生数名が委嘱を受け、活動している。



制作した啓発ポスターの紹介(仁愛女子高校)

令和6(2024)年8月、丸岡バスターミナル交流センターで開催された「MARUOKA ムービーナイト2024」にて、辻岡ゼミ3名がデジタルアートを発表した。

令和6(2024)年10月、永平寺で開催された「秋浪漫2024」にて、アーティスト・イン・レジデンス「ZEN AIR」子ども向けワークショップのボランティアスタッフ及び招待アーティストの通訳として、1回生3名が参加した。



デジタルアート



子ども向けワークショップ

令和6(2024)年10月、「福井市少年自然の家」にて、吉村ゼミと前田ゼミが子どもたちと協力して、シャッターアートのイベントを開催した。

令和6(2024)年11月、フクミラ(フクのミライを創るプロジェクト)の一環として、澤崎教授がネパールの日本語学校で環境教育の模擬授業を行い、澤崎ゼミ2名がオンラインで交流した。

令和6(2024)10月、武蔵野美術大学佐々木ゼミと共に、吉村ゼミが「WAKASA アートキャンプ」で若狭塗箸のリサーチを行い、12月に福井県立美術館にて参加型アートインスタレーション「はしっこの景色」を開催した。



シャッターアートプロジェクト



ネパールでの模擬授業

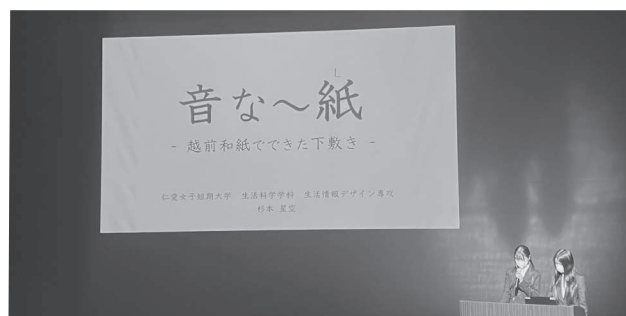


はしっこの景色

ウ コンクールでの受賞やデザインの採用

「ビジネス実務演習Ⅰ」における企画書作成演習として応募している「福井発! ビジネスプランコンテスト」では、令和5(2023)年度は「音な〜紙：越前和紙でできた下敷き」が学生の部 準グランプリ(及びスポンサー賞)を受賞した。

令和4(2022)年度、福井市企業局が公募した下水道事業で使用する電気自動車のボディラッピングデザインにおいて、最優秀デザイン賞に選ばれた。



ビジネスプランコンテスト2023学生の部 準グランプリ

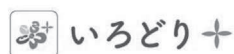


電気自動車ボディラッピングの最優秀デザイン賞

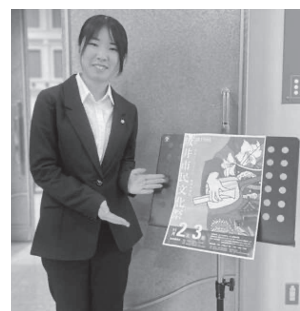
令和5(2023)年、永和システムマネジメントが開発・運用している『いろどり+』のロゴデザインに本専攻学生作品が採用された。

令和6(2024)年、坂井市民文化祭のポスターに採用された。

令和6(2024)年、福井市市民憲章制定60周年を記念した「市民憲章デザインコンテスト」において、特別賞を受賞した。
(文責：田中洋一)



いろどり+のロゴデザイン



坂井市民文化祭ポスター



市民憲章デザインコンテスト特別賞



市民憲章制定60周年記念大会における表彰式

④ 食物栄養専攻

ア 近10年の歩み

食物栄養専攻の教育目的は、「人々のよりよい食生活を的確に支援できる実践的な栄養士を養成するための教育研究を行う」ことである。令和6(2024)年度以降、新たな学生を募集することについては、18歳人口の減少や4年生大学志向など近年の社会状況の変化による影響により、仁愛大学人間学生生活学部健康栄養学科に集約されることになり募集停止となった。

イ 学びの特色

(ア) 特別講師招聘(卒業生に学ぶ)

通常の授業以外に外部の特別講師による講義をミーティングアワーの時間を活用して行った。現職の管理栄養士、栄養士で職種の異なる卒業生を特別講師として招聘した。卒業生から栄養士の仕事、仕事で必要になる能力や学生のうちにやるべきことなど在校生の関心を惹く内容を講義の話題とし栄養士という職業の理解を深めた。



卒業生に学ぶ：令和6(2024)年度

(イ) 食文化研修旅行

食物栄養専攻独自の研修として平成27(2015)年度以降も継続して和菓子作りや市場の見学などの体験学習による1日研修を石川県金沢市で実施した。新型コロナウイルス感染症(COVID-19)により、



食文化研修旅行 市場の見学(石川県金沢市)：令和元(2019)年度

令和2(2020)年度と令和3(2021)年度の入学生については実施できなかった。新型コロナウイルス感染症(COVID-19)収束後は研修場所を福井県嶺南に変えて実施した。



食文化研修旅行 体験学習(福井県小浜市)：令和6(2024)年度

(ウ) 全国栄養士養成施設協会認定栄養士実力認定試験

全国栄養士養成施設協会認定栄養士実力認定試験は平成27年度以降も継続して実施しており、ほぼ全員がこの試験を受けている。成績優秀でかつ栄養士として就職する学生1名に全国栄養士養成施設協会より会長賞が授与される。毎年、通常の授業時間外に模擬試験と補習を実施した。



模擬試験：令和6(2024)年度

(エ) フードスペシャリスト資格

日本フードスペシャリスト協会認定のフードスペシャリスト資格試験についても平成27(2015)年度以降も継続して実施しており、希望者がこの試験を受けている。成績優秀者1名にフードスペシャリスト協会会長賞が授与される。毎年、通常の授業時間外に模擬試験と補習を実施した。



補習授業：令和6(2024)年度

ウ 地域社会との連携・貢献活動

(ア) 福井市との連携

福井市の生活習慣病予防キャンペーン「ふくふくベジ・ファースト応援事業」の広報啓蒙活動に協力する「ベジ・ガールズ」に食物栄養専攻2回生8人が任命された。



平成28(2016)年7月16日
(福井新聞より)

(イ) 福井県との連携

福井県健康福祉部健康増進課からの依頼で普段の食事にもう一品追加することで野菜は80g以上、不足しがちなカルシウムと鉄では1日に必要な量の20%をプラスできるレシピ、その名も「ちょい足し健幸レシピ」を食物栄養専攻1・2回生全員が考案した。



福井テレビの県広報番組
「ほっとふくい」撮影時の様子
平成29(2017)年2月3日放送

(ウ) 食品加工会社との協働

石川県七尾市に本社を置く食品加工メーカーである株式会社スギヨとの協働は練り物を使用した簡単・美味しい・子どもも大人も大好き!な12レシピを載せたレシピ集を完成させた。完成させたレシピ集は高等学校等の教育機関に配布した。



スギヨ食品との協働レシピ集
令和2(2020)年2月17日
仁愛女子短期大学キャンパスブログより

(エ) 飲食店との協働

福井市に本社を置く株式会社五目亭と協働し商品メニューの開発を行った。開発したメニューは十一月下旬から一カ月間、五目亭福井駅前店で提供された。



令和3(2021)年11月13日
日刊県民福井より

(オ) 未来協働プラットフォームふくい推進事業

福井県小浜市に本社を置く株式会社とば屋酢店、福井県福井市に本社を置く株式会社米五と行った協働はテーマを「栄養士養成課程における郷土の食文化継承」とし、実践的PBLを未来協働プラットフォームふくい推進事業(福井版PBL支援分)に基づき調理学実習Iの時間で行った。

(文責:高木康之)



株式会社とば屋酢店と協働した郷土料理：令和5(2023)年度



施設内見学(株式会社とば屋酢店)：令和5(2023)年度



ミーティング(株式会社米五)：
令和5(2023)年度



施設内見学(株式会社米五)：
令和5(2023)年度

2 幼児教育学科

1) 学科の歩みと現状

① 学科創設からの 50 年の歩み

幼児教育学科のスタートは、昭和41年(1966)創設の「保育科」(定員50名、幼稚園教諭2級免許状と保育士資格取得)である。また、同じ年に附属幼稚園も短期大学内のキャンパスに設置された。

昭和43年度(1968)には「初等教育コース」(定員30名、小学校教諭2級免許状と幼稚園教諭2級免許状取得)が新設され、既設の保育科は「保育コース」となり、科名も「児童教育科」と改称された。

昭和44年度(1969)には「音楽教育コース」(定員20名、幼稚園教諭2級免許状取得)が開設され、児童教育科は3コース体制となった。

昭和47年度(1972)、音楽教育コースが「音楽学科」として独立したのに伴い「児童教育学科」と改称し、従来の保育コースを「幼児教育専攻」(定員を80名に増員)に、初等教育コースを「初等教育専攻」に改組した。

昭和48年度(1973)には幼児教育専攻の定員を100名に、さらに昭和51年度(1976)には150名に増員した。

昭和54年度(1979)には児童教育学科に「幼児教育研究センター」を創設し、幼児教育現場に就職した本学科卒業生に対するリカレント教育と教育情報の提供を行った。

昭和62年度(1987)には、幼児教育専攻に「教育情報コース」(定員40名、幼稚園教諭免許状取得)を創設した。

平成2年度(1990)には初等教育専攻を廃止し、「体育コース」(定員30名、幼稚園教諭免許状とレクリエーション・インストラクター資格取得)を創設した。

平成3年度(1991)には学科名を「幼児教育学科」に改称し、平成6年度(1994)には体育コースを「健康体育コース」に改称したが、平成12年度(2000)に幼稚園教諭養成課程の変更により授業科目数が増加したため、健康体育コースは廃止された。また、同年、教育情報コースについても保育士資格とレクリ

エーション・インストラクター資格を取得することができるようカリキュラムを改定した。

平成13年(2001)11月に児童福祉法の一部を改正する法律が公布され、保育士資格の法定化が図られた。保育士資格が国家資格となり、保育士養成課程の教科目も増大したため、平成14年度(2002)には教育情報コースを廃止し、単一の幼児教育学科(定員150名、幼稚園教諭2種免許状、保育士資格、レクリエーション・インストラクター資格取得)となった。

平成19年度(2007)には、幼稚園・保育園のためのリトミック2級指導資格、令和2年度(2020)には、認定絵本士称号および保育心理士(二種)資格の取得が可能となった。

② 近 10 年の歩み

ア 入学定員の増減

平成14年度(2002)以降現在(令和6年度(2024))まで、単一の幼児教育学科として継続しているが、入学定員は状況に応じて変化している。

平成21年度(2009)に、仁愛大学に人間生活学部子ども教育学科(定員50名、保育士資格、幼稚園教諭1種免許状、小学校教諭1種免許状等取得)が開設されたことに伴い、幼児教育学科の定員を100名に減員した。しかし、社会的に保育士の需要が増大し、保育士不足が加速したため、保育現場から定員増の要望が寄せられ、平成23年度(2011)に定員を20名増員して120名とした。

その後、令和2年度(2020)に、仁愛大学人間生活学部子ども教育学科の定員を50名から70名に増員したことにより、幼児教育学科の定員を再び100名に減員し、現在に至る。保育職への志望者が減少し、その後入学者数は増加せず苦戦が続いている。(表1)

イ 卒業生の進路

卒業生の就職は、保育士不足の社会情勢の中で好調を保っている。幼児教育学科卒業生の就職の特徴として、専門職への就職率が高いことが挙げら

れる。毎年卒業生の90%以上が保育士、保育教諭、幼稚園教諭、施設職員として就職しており、特に近年では、幼保連携型認定こども園の増加に伴い、保育教諭の割合が高い。(表2)

ウ カリキュラムの変遷

(ア)新教職課程・新保育士養成課程への変更

平成29年(2017)3月31日に、「幼稚園教育要領」(文部科学省告示第62号)、「保育所保育指針」(厚生労働省告示第117号)、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(内閣府・文部科学省・厚生労働省告示第1号)が公示され、平成30年(2018)4月1日から施行となった。これらの改訂により、教職課程の質的水準の向上が求められることとなった。

具体的な内容として、1. 科目区分の大括り化(「教科に関する科目」と「教職に関する科目」等に分かれている科目区分を、「教科及び教職に関する科目」に大括り化する)、2. 履修内容の充実(これまで以上に機動的かつ弾力的に、新たな教育課題に対応できる)とし、より実践的指導力のある教員を養成するための教職課程・保育士養成課程への変更が目指されることとなった。幼児教育学科としては、「領域及び保育内容の指導法に関する科目」にあたる「子どもと健康・人間関係・環境・言葉・表現(造形・音楽)」および「子ども理解の理論と援助方法」などの科目を新設した。

表1 幼児教育学科定員と入学者数の推移

入学年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
入学定員	120	120	120	120	120	100	100	100	100	100
入学者数	130	111	115	107	102	97	92	81	77	57
クラス数	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2

表2 幼児教育学科卒業生の進路

卒業年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	計
保育士	79	54	42	43	44	37	20	21	12	352
保育教諭	20	48	46	46	44	40	52	43	54	393
幼稚園教諭	6	6	6	2	2	3	3	1	1	30
社会福祉施設職員 (介護・施設指導員・ 生活支援員)	6	5	2	8	2	5	5	9	2	44
保育補助			1			1		4		6
公務員	4	4	6	6	8	5	10	3	5	51
上記以外の職種	4	2	3	2	5	4	2	1	1	24
進学	2	1	1		1		1			6
その他(家事など)	4	7	3	1		4	4	5	4	32
計	125	127	110	108	106	99	97	87	79	938

(イ)令和6年度(2024)のカリキュラム

表3～表6は、令和6年度(2024)の幼児教育学科カリキュラムである。幼稚園教諭2種免許状及び保育士資格、レクリエーション・インストラクター資格、幼稚園・保育園のためのリトミック2級指導資格、認定絵本土称号、保育心理士(二種)資格を取得することができるように配慮されている。

エ その他

平成27年度(2015)から、リニューアルされたE館校舎の使用が始まった。1階には、電子ピアノ42台を設置した「ヤマハ・ミュージックラボラトリー・システム」を導入し、学生一人ひとりのピアノ演奏技術の向上を目指している。その他にも、ゼミ室や実習支援室などを設けて学生の学修支援を行っている。

平成30年度(2018)には、文部科学省私立大学研究ブランディング事業「保育者育成のためのキャリア・ループリックの開発～シームレスな高校・短大・保育現場の繋がりを目指して～」(取組責任者：増田翼)が採択され、令和元年度(2019)には、高校生を対象とした一日幼稚園の先生体験をする「保育現場体験ツアー」が開催され、現在も継続されている。

近年、幼稚園教諭免許および保育士資格取得以外の選択科目の受講率が低迷していた。より魅力的な保育者として活躍できるよう、自分の特技や興味・関心のある分野をさらに深める3コース制を令和7年度(2025)からスタートすることとなった。具体的には、「こども探究コース」「表現コース」「心理コース」の中から1つのコースを選択し、子どもとかかわるスペシャリストを目指していく。

(文責：木下由香)

表3 現在の幼児教育学科カリキュラム(教養科目)

授業科目		単 位 数	講 演 実	幼 稚 園 免 許	保 育 士 資 格	レ ク リ エ ー シ ョ ン 資 格	保 育 心 理 士 資 格
建学の精神	人間と仏教Ⅰ	②					○
	人間と仏教Ⅱ	①	演				
	社会活動実践	1	演				
現代の教養	人間と文学	2					
	福井地域学	2					
	芸術と文化	2					
	日本の憲法	2		○			
健康	健康と食	2					
	運動と健康	1		○	○	○	
	スポーツ実技	1	実	○	○		
	野外スポーツ	1	演				
スキル コミュニケーション	英語会話	2	演	○			
	情報メディア入門	②		○			
	データサイエンス入門	①					

表4 現在の幼児教育学科カリキュラム(専門科目)

授業科目	単 位 数	講 演 実	幼 稚 園 免 許	保 育 士 資 格	リ ト ミ ッ ク 資 格	レ ク リ エ ー シ ョ ン 資 格	保 育 心 理 士 資 格
保育原理	②			○			
教育原理	②		○	○			
教育社会学	2		○				
教育の方法と技術	2		○				
子ども家庭福祉	②			○			
社会福祉	2			○			
子ども家庭支援論	2			○			
子育て支援	1	演		○			○
社会的養護Ⅰ	2			○			
社会的養護Ⅱ	1	演		○			
教職論	2		○	○			
発達心理学	2			△			○

授業科目	単 位 数	講 演 実	幼稚園 免許	保育士 資格	リトミ ック 資格	レクリ エーシ ョン 資格	保育心理 士資格
教育心理学	②		○	○			
子ども家庭支援の心理学	2			○			
子ども理解の理論と援助方法	1	演	○	○			○
子ども家庭支援と教育相談	2		○	△			○
子どもの保健	2			○			○
子どもの健康と安全	1	演		○			
子どもの食と栄養Ⅰ	1	演		○			
子どもの食と栄養Ⅱ	1	演		○			
教育課程総論	②		○	○			
保育内容総論	①	演	○	○			
保育内容指導法（健康）	1	演	○	○			
保育内容指導法（人間関係）	1	演	○	○			
保育内容指導法（環境）	1	演	○	○			
保育内容指導法（言葉）	1	演	○	○			
保育内容指導法（表現）	1	演	○	○			
文章表現の基礎	①	演		△			
身体表現の基礎	1	演		△			
造形表現の基礎	1	演		△			
音楽表現の基礎	1	演		△			
子どもと健康	1	演	○	○		○	
子どもと人間関係	1	演	○	○			
子どもと環境	1	演	○	○			
子どもと言葉	1	演	○	○			
子どもと表現（造形）	1	演	○	○			
子どもと表現（音楽）	1	演	○	○			
音楽（ピアノ基礎演習）	2	演	○	△			
うたと伴奏Ⅰ	1	演		△			
うたと伴奏Ⅱ	1	演		△			
乳児保育Ⅰ	2			○			
乳児保育Ⅱ	1	演		○			
乳児の生活とあそび	1	演		△			
障害児保育と特別支援Ⅰ	1	演	○	○			

授業科目	単 位 数	講 演 実	幼稚園 免許	保育士 資格	リトミ ック 資格	レクリ エーシ ョン 資格	保育心理 士資格
障害児保育と特別支援Ⅱ	1	演		○			○
保育の専門性	2			△			
ふくいの保育	1	演		△			
おもちゃ研究	1	演		△			
リトミック	1	演			○		
レクリエーションⅠ	1	演				○	
レクリエーションⅡ	1	演				○	
教育実習Ⅰ	4	実	○				
教育実習Ⅱ	1	実	○				
保育実習Ⅰ	4	実		○			
保育実習指導Ⅰ	2	演		○			
保育実習Ⅱ	2	実		△			
保育実習指導Ⅱ	1	演		△			
保育実習Ⅲ	2	実		△			
保育実習指導Ⅲ	1	演		△			
保育・教職実践演習（幼稚園）	2	演	○	○			
保育総合ゼミナール	②	演					

表5 認定絵本士称号取得に関する科目

授業科目	単 位 数	講 演 実	資 格
子どもと絵本	2	演	○

表6 保育心理士（二種）資格取得に関する科目

授業科目	単 位 数	講 演 実	資 格
保育心理実習	1	実	○
保育心理実習指導	1	演	○

2) 保育者養成と実習

幼保連携型認定こども園の増加に伴い、幼稚園教諭2種免許状と保育士資格の両者の取得が保育者として必須となりつつある。本学科においても、両者の取得を目指し、実習を行っている。

近年の保育者不足に伴い、実習先で就職を斡旋される学生も少なくない。そのため、各園からの実習生を受け入れたいという要望も多い。

本学科では、それらの事情を鑑み、仁愛女子短期大学附属幼稚園以外の実習先は、学生の希望を優先に決定している。

① 幼稚園教諭2種免許状取得に関する実習

幼稚園教諭2種免許状取得のためには、教育実習Ⅰ・Ⅱ（5単位）が必修である。

ア 教育実習Ⅰ（4単位）

教育実習Ⅰは、仁愛女子短期大学附属幼稚園実習（1週間）と希望する幼稚園または認定こども園での指導実習（3週間）の4週間の実習である。

仁愛女子短期大学附属幼稚園では、1年次9月に1週間の実習が行われる。学生にとっては、初めての实習で、幼稚園教諭の仕事や幼児とのかかわり等、実習全般について学ぶ場となっている。

2年次6月に実施される指導実習は、希望する幼稚園または認定こども園にて、附属幼稚園での経験をもとに3週間行われる。子どもと共に生活する中で、



附属幼稚園でのオリエンテーション



附属幼稚園での実習

子どもの発達に適した保育内容を考え、指導計画を立案し、実際に指導を行う経験をすることで、幼稚園教諭の仕事を具体的に体得することを目的としている。



実際の実習の様子

イ 教育実習Ⅱ（1単位）

教育実習Ⅱは、教育実習を効果的に行うための学内での事前・事後指導である。学生の様子や短大以前の経験、コロナ禍の影響等を踏まえ、講義や演習だけでなく、敷地内にある附属幼稚園に出かけ、幼児を参観する場合もある（令和6年度（2024）入学生より実施）。実習が行われる前に担当するクラスの幼児を参観し、実際の育ちを目の当たりにすることで意欲が高まる様子も見られる。

これらの指導を教育実習の時期を考慮しながら2年間の見通しをもって計画している。（表7）

表7 教育実習Ⅱ 授業計画（令和5年度入学生）

	回	授 業 内 容
1 年 前 期	1	教育実習オリエンテーション
	2	子どもの発達理解①(3歳児)
	3	子どもの発達理解②(4・5歳児)
	4	仁愛女子短期大学附属幼稚園にて 清掃体験(2024年度は幼児観察)
	5	幼稚園教育実習の心構えについて
	6	実習要項・実習ノート等について
	7	附属幼稚園実習オリエンテーションについて
	8	附属幼稚園でのオリエンテーション
	9	指導計画作成について
	10	教育実習ノートの記入について
1 年 後 期	<仁愛女子短期大学附属幼稚園実習>	
	11	附属幼稚園実習事後指導 (自己評価及び今後の実習に向けて)
	12	電話対応の基本
	13	話し方と敬語
	14	実習先を訪問するときのマナー
2 年 前 期	15	教育実習報告会(参加)
	16	教育実習事前指導
	17	実習ノートについて
	18	指導案作成演習①
	19	教育実習の心得
	20	指導案作成演習②
	21	実習園でのオリエンテーション
2 年 後 期	<幼稚園(指導)実習>	
	22	教育実習の総括 (自己評価及び実習報告会に向けて)
※	23	教育実習報告会(発表)

※2年後期



担当するクラスの幼児を中心に参観



例年、附属幼稚園実習後に行われる運動会には、たくさんの学生がボランティアとして参加している。

② 保育士資格取得に関する実習

保育士資格取得のためには、保育実習Ⅰ(4単位)及び保育実習指導Ⅰ(2単位)が必修であり、保育実習Ⅱ(2単位)及び保育実習指導Ⅱ(1単位)、または、保育実習Ⅲ(2単位)及び保育実習指導Ⅲ(1単位)のいずれかを選択履修しなければならない。

ア 保育実習Ⅰ(4単位)

保育実習Ⅰは、1年次2月に行う保育所(参加・観察)実習(2単位、10日間)と、2年次8月に行う施設実習(2単位、10日間)の2回の実習であり、保育士資格を取得するためには必修である。

保育所(参加・観察)実習は、学生の希望する保育所または認定こども園で10日間(80時間)実習を行う。子どもと共に生活する中で、保育所ま

たは認定こども園の生活と一日の流れ、子どもの観察とその記録による理解、子どもの発達過程を理解した援助やかかわり、専門職としての保育士の役割や業務内容などについて具体的に学ぶ。

施設実習は、児童養護施設、乳児院、障害児施設、知的障害者施設等の実習候補先の中から、担当者が学生の希望を参考に実習先を指定し、10日間（80時間）実習を行う。施設の生活と一日の流れ、利用者の観察とその記録による理解、利用者の心身の状態に応じた対応、施設における保育士の役割や他職種との連携などについて具体的に学ぶ。

イ 保育実習指導Ⅰ（2単位）

保育実習指導Ⅰは、保育所（見学・観察）実習を効果的に行うための学内での事前・事後指導（1

単位）及び、施設実習を効果的に行うための学内での事前・事後指導（1単位）である。2年間の見通しの中で、実習の時期を考慮しながら表8・9のように計画している。



仁愛保育園での清掃体験

表8 保育実習指導Ⅰ(保育所実習指導) 授業計画
(令和5年度入学生)

	回	授 業 内 容
1 年 前 期	1	表現遊び講習①(手遊び・うた遊び)
	2	表現遊び講習②(絵本)
	3	表現遊び講習③(折り紙遊び)
	4	保育所の理解と実習の心得
	5	仁愛保育園にて清掃体験
1 年 後 期	6	学外実習オリエンテーション
	7	実習依頼の手続き等について
	8	保育士の仕事と役割について
	9	初めての保育実習について
	10	保育所実習報告会（参加）
	11	保育所（参加・観察）実習について
	12	実習先でのオリエンテーション
	13	実習ノートの記入について
	14	実習の諸注意
		＜保育所（参加・観察）実習＞
※	15	実習事後指導 (自己評価及び保育実習Ⅱに向けて)

※2年後期

表9 保育実習指導Ⅰ(施設実習指導) 授業計画
(令和5年度入学生)

	回	授 業 内 容
1 年 後 期	1	施設実習の目的・概要
	2	施設実習報告会（参加）
	3	実習内容と課題、実習先施設の理解①
	4	実習先施設の理解②
	5	施設見学に関するオリエンテーション
	6	施設（障害者支援施設）見学
	7	
2 年 前 期	8	学内での施設実習オリエンテーション
	9	実習の計画と記録、観察の視点について
	10	実習日誌の書き方、心構え、諸注意
	11	実習施設でのオリエンテーション
2 年 後 期		＜ 施 設 実 習 ＞
	12	施設実習総括①自己評価
	13	施設実習総括②グループワーク
	14	施設実習総括③報告会に向けて
	15	施設実習報告会（発表）

ウ 保育実習ⅡまたはⅢ（2単位）

保育士資格取得のためには、保育実習Ⅱ（保育所（指導）実習）または保育実習Ⅲ（施設（指導）実習）のいずれかを選択履修しなければならない。

2年次9月に実施される保育実習Ⅱ（保育所（指導）実習）は、原則として保育実習Ⅰの保育所（参加・観察）実習を行った保育所または認定こども園にて10日間（80時間）行われる。保育実習Ⅰでの経験を踏まえて、子どもと共に生活する中で保育士の仕事を実際に体験し、発達に適した保育内容を考える。さらに、計画－実践－記録－評価を実践することで保育士の仕事を具体的に体得することを目的としている。

保育実習Ⅲは、保育実習Ⅱと同時期の2年次9月に実施される施設（指導）実習で、10日間（80時間）行われる。施設保育士の業務内容や職業倫理等を具体的に理解し、職能を身に付けることを目的としている。

エ 保育実習指導ⅡまたはⅢ（各1単位）

保育実習指導Ⅱは、保育実習Ⅱを効果的に行うための学内での事前・事後指導であり、保育実習指導Ⅲは、保育実習Ⅲを効果的に行うための学内での事前・事後指導である。保育実習Ⅱを選択した場合は保育実習指導Ⅱを、保育実習Ⅲを選択した場合は保育実習指導Ⅲを履修しなければならない。

保育実習指導Ⅱでは、「子どもが楽しめる遊び環境づくりと実践」の学習として「じんあいこどものくに」と題した子ども向けイベントを企画・開催したり（平成21年（2009）～令和4年（2022）。以降は、授業外で開催）、福井県幼児教育支援センター

主催の研修会に参加し、県内外の保育者と共に県の取り組みを学び、グループ協議に参加したりという実践的な内容も盛り込みながら、表10のように授業を計画している。

保育実習指導Ⅲでは、これまでの実習で学んだ知識技能に加えて、より専門的な知識が必要となるため、実習前に重点的に授業を行い、保育実習Ⅲを迎えられるように表11のように授業を計画している。

表10 保育実習指導Ⅱ 授業計画
(令和5年度入学生)

	回	授 業 内 容
2 年 前 期	1	表現遊び演習①(手遊び)
	2	表現遊び演習②(わらべうた遊び)
	3	保育実習（指導）の心得
	4	保育実習（指導）の指導案について①
	5	保育実習（指導）の指導案について②
	6	保育実習（指導）に関する諸注意
	7	実習先でのオリエンテーション
		<保育所（指導）実習>
2 年 後 期	8	保育実習Ⅱ総括（自己評価）
	9	実習報告書作成①
	10	実習報告書作成②
	11	実習報告書作成③
	12	学びをつなぐ希望のボタンフォーラム参加
	13	(幼児教育支援センター主催)
	14	子どもの人権について考える
	15	保育所実習報告会（発表）



「じんあいこどものくに」を実施



福井県幼児教育支援センターの研修会に参加

表 11 保育実習指導Ⅲ 授業計画
(令和5年度入学生は希望者なし)

	回	授 業 内 容
2 年 前 期	1	保育実習Ⅲの意義と目的
	2	自己の実習施設に対する理解
	3	実習施設で生活する子ども（利用者）の理解とニーズの把握
	4	実習施設における生活について
	5	多様な専門職との分担・連携
	6	実習日誌について（観察、記録、評価）
	7	個別支援計画について
2 年 後 期	8	子ども（利用者）の家族・保護者への支援と対応について
	9	保育士としての職務と職業倫理
	10	実習課題の設定、実習の諸注意
	11	実習施設でのオリエンテーション
	＜施設（指導）実習＞	
	12	実習の総括①(振り返りと自己評価)
	13	実習の総括②(課題の明確化)
	14	実習の総括③(報告会に向けて)
	15	全体を通したまとめ

実習報告会①



実習報告会②

これらすべての実習、及び実習を効果的に行うための事前・事後指導を実施し、幼稚園教諭2種免許状及び保育士資格の取得を目指している。

(文責：川崎恵理)

3) その他の諸活動

ここからは、近10年のなかでも特筆すべき諸活動として、①「学長裁量経費事業」の取り組み、②「私立大学研究ブランディング事業」採択、③「大学・短大・幼稚園・保育園連携協議会」の発足について記しておきたい。

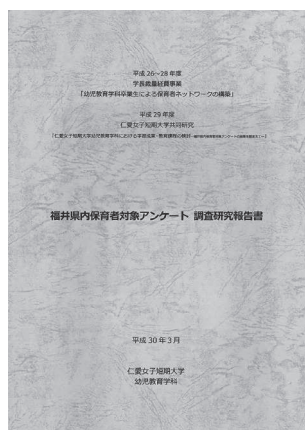
① 「学長裁量経費事業」の取り組み

幼児教育学科では、平成26年度（2014）から平成28年度（2016）までの3年間、「仁愛女子短期大学学長裁量経費事業」に取り組んだ（事業テーマ「幼児教育学科卒業生による保育者ネットワークの構築」）。この取り組みのなかでも、特に福井県内の全幼稚園、保育所、認定こども園（計

337園）を対象としたアンケート調査を実施（回収率86%、有効回答数1831）したことは、後述する「私立大学研究ブランディング事業」採択へとつながっていく大きな契機となった。このアンケート調査では、保育者養成校としての本学幼児教育学科の特徴や課題を浮き彫りにすることを目的に、計63項目の設問に対して「学生時代の卒業までにどの程度身についたか?」と「普段の仕事の中でどの程度求められているか?」の2つの観点を尋ねた。こうした膨大なデータ量に及ぶアンケート調査の結果については、その後の平成29年度（2017）「仁愛女子短期大学共同研究」において、学科教員はもちろんのこと、関係者（研究協力者）にも分析を依頼し、最終的には『福井県内保育者対象アンケート調査研究報告書』（2018年3月）のかたちで公表した。

これらの活動を通じて、本学幼児教育学科で身についた学修成果と現場が求める資質・能力との間に乖離（＝段差）がある項目が確認されたほか、初任・中堅・管理職保育者それぞれのステップで求められる資質・能力に違い（＝もう一つの段差）があることも明らかとなり、このような段差を埋めるための継続的な調査研究の必要性を痛感することとなった。

なお、平成26年度（2014）から平成29年度（2017）というのは、丁度、全国的にアドミッションポリシー（AP）、カリキュラムポリシー（CP）、ディプロマポリシー（DP）の整備・改革というものがあった時期でもあり、本学幼児教育学科としても、学修成果をどうするか、教育課程をどう編纂するかという課題に向き合っているところだった。こうした時期に、福井県内の現場保育者から貴重なデータを頂戴できたことは、今から考えれば、かけがえのない機会だったといえるだろう。ちなみに調査を通じて、福井県内における現場保育者の57.3%が仁愛女子短期大学の卒業生（2016年12月調査時点）だということも判明している。



『福井県内保育者対象アンケート調査研究報告書』（2018年3月）

② 「私立大学研究ブランディング事業」採択

上述の『福井県内保育者対象アンケート調査研究報告書』を公表してまもなく、偶然にも、文部科学省「私立大学研究ブランディング事業」募集に関する話題が学内で持ち上がった。幼児教育学科としては、「学長裁量経費事業」「共同研究」を通して様々な課題が見えていたこともあって、この事業への申請に挑戦することになった。申請段階（2018年7月）では学内で何度も協議を重ねつつ、高校・短大・保育現場の3者間の連携・協働を実現することによ

りシームレスな保育者育成環境を構築する、という目的を据えた。また、その実現のための中核的手段として「キャリア・ルーブリック」（保育職志望段階から管理職保育者段階までの間に求められる資質・能力の継続的発展を示す表）の開発を掲げ、そのための研究計画をまとめた。さらに、こうした研究活動の成果を関係する様々なステークホルダーへ周知することを通じて、「保育の学びがみえる仁短」というブランドイメージ確立を目指す、というブランディング戦略を立ち上げることも決まった（事業テーマ「保育者育成のためのキャリア・ルーブリックの開発～シームレスな高校・短大・保育現場の繋がりを目指して～」）。実際に採択通知が届いたのは平成31年2月のことだったが、この平成30年度（2018）採択に限って言えば、全国で選定された20校のうち、短期大学で選ばれたのは本学のみであった。

この研究ブランディング事業を進めるに当たっては、主として以下3点について考察を要することとなった。まず1つ目は、養成校教員は養成校のなかのことだけ考えていれば良いのではなく、もっと広い視野で保育者の養成や育成の全体像を把握する必要があるという点である。当然、全体像を把握しようと思えば、様々な関係者と連携したり接続について互いに話し合ったりしなければならず、そうした体制づくりへのアプローチが大きな課題となった。

2つ目に、実際、保育者として仕事をしていくことを想定した際に、それぞれの時期に一体どういうことを考えたり、どういう課題を抱えたり、今どういう状態にあるのかということに関係者間でしっかりと理解できているのか、という点が挙げられる。つまりは保育者としてのキャリアパスの問題である。そもそも養成校教員は、保育者のキャリアパスをちゃんと理解したうえで授業をしたり、現場の研修を行ったりしているのだろうか、という点についても熟考が求められるであろう。

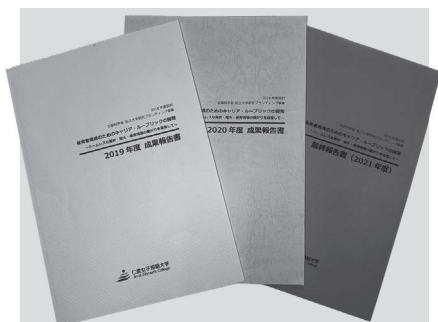
3つ目に、福井県のみならず全国の地方自治体において深刻となってきた人口減少の問題である。養成校の立場からすると18歳人口が減るというのは

経営に直接的な大打撃を与えることであり、さらには、保育者のなり手がますます減っていくことも想定される。こういうなかで、いかに小学生・中学生・高校生に保育の魅力、保育職の魅力を知ってもらうか、関心を抱いてもらうか（魅力発信）、この点が極めて重要な優先課題だということも、事業に取り組むなかで共有されはじめていった。

ところで、令和元年（2019）2月の採択時においては補助金交付期間として令和2年度（2020）までの3年間という期間が提示されたが、学内で様々な協議した結果、本学としては1年間延長して、令和3年度（2021）までこの事業を実施していく運びとなった。各年度末には、外部評価委員参加のもと、その1年間の事業活動を振り返り評価していただくという体制も確立しながら、事業期間内で計3冊の『報告書』を公表している。ただし、この事業期間中に世界的な新型コロナウイルス感染症拡大が重なってしまったこともあり、当初計画していた規模での関係者間連携が思うようにいかなかった部分は多い。それでもオンライン会議などを活用しながら事業を進めていった。

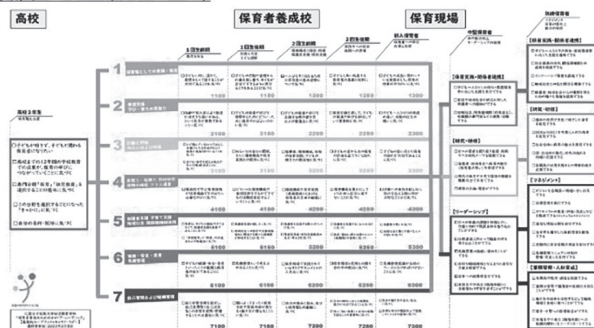
この事業の最終の取りまとめの機会としては、令和4年（2022）2月26日に「成果報告会」をZoomウェビナーで開催し、全国の保育者養成校関係者を中心に100名近くの方々にご参加いただいた。この事業を通じて得た知見や種々のつながりはその後も発展的に継続しており、令和6年（2024）現在でも、全国保育士養成協議会が主催する研修会や保育の魅力発信に関する会議等で仁愛女子短期大学としての意見を求められるなどしている。

『成果報告書』



なお、この事業を通じて作成された「キャリア・ルーブリック」は、幼児教育学科の在籍生に対する在籍期間内計6回の調査に活用されている。また、そこで得られたデータについては、学科内での共有のみならず、「幼児教育学科学修成果の可視化FD研修会」において全学的にも議論され、学修成果や教育課程を検討する際の根拠の一つとしても参考にしている。

長期的ルーブリック（キャリア・ラダー）



保育者育成のためのキャリア・ルーブリック



「幼児教育学科学修成果の可視化FD研修会」（2024年3月7日）

③ 「大学・短大・幼稚園・保育園連携協議会」の発足

最後に、仁愛女子短期大学の垣根を越えて仁愛大学、仁愛女子短期大学附属幼稚園、さらには仁愛保育園を含めた4者における連携の強化についてまとめておきたい。

話は、令和4年（2022）4月に打ち出された「福井仁愛学園将来構想 第3次中期計画」において、大学子ども教育学科、短大幼児教育学科、短大附

属幼稚園を持つ総合学園の利点を活かし、「幼児教育総合研究センター（仮称）」を整備し、幼児教育に関する情報・人材・研究の拠点化を図り、発信力を高めるとともに、新たな教育・研究活動の展開を目指すことが示されたことに端を発する。その後、関係者協議の結果「幼児教育・保育の振興と保育者養成に関する協定書」（連携協定書）が結ばれ、併せて連携協議会設置要綱が施行された（2022年10月1日）。これ以後は、4者それぞれの代表者による連携協議会を定期的に関きながら、具体的な方向性の議論や実施可能な交流活動の提案などをして進めていった。初年度である令和4年度（2022）中は、「保育園・幼稚園交流活動」と題して、仁愛保育園を会場とした両者の年中組同士の交流会の実施（2023.3.9）などに留まったが、翌年度からは本格的にいくつもの企画を実施している。

たとえば令和5年度（2023）は、例年の短大防災訓練の日程に合わせて、附属幼稚園・仁愛保育園も一緒になって高所へ避難するという「合同避難訓練」（2023.9.13）や、附属幼稚園・仁愛保育園を調査対象園とする「保育におけるICT活用の実践的研究」（研究拠点：短大）などを実施した。「ICT活用実践」については令和6年度（2024）も継続して行っており、このために必要となるICT機器購

入費（附属幼稚園：iPhone、仁愛保育園 iPad など）については、仁愛学園の後援会から補助をいただくかたちで実施している。

令和6年度（2024）の活動のなかでも特に盛り上がりを見せているのは、短大・附属幼稚園・仁愛保育園の3者による「きょうりゅうのもり」活動である。これはもともと、森田駅に附設されている「夢ギャラリー森田」に幼稚園児、保育園児の子どもの作品を展示するという企画だったものだが、せっかくならば子どもたちの興味・関心を広げながら、展示全体の構想まで子どもたちの想いを活かしたいという保育者側の考えが加味されて、連携企画へと発展したものである。実際には、短大の2回生がゼミ活動で制作した「きょうりゅうのたまご」を附属幼稚園のなかに仕掛けることから始まり、それを見つけた幼稚園児・保育園児が、「逃げた赤ちゃんきょうりゅう」を見つけるために、「友だちきょうりゅう」をつくるという目的を見出すなかで遊びが深化していった。最終的には、幼稚園・保育園合同できょうりゅう制作の時間を設け、さらに保育園児が中心となって「夢ギャラリー森田」の装飾までを担い、見事な作品展示となった。この様子は新聞各社に記事として取り上げてもらうとともに、テレビニュースでも放映された。

（文責：増田 翼）



短大・幼稚園・保育園による合同避難訓練（2023年9月13日）



「夢ギャラリー森田」が「きょうりゅうのもり」に



3 学生の活動

学生部から総合学務センターへ

その役割とその歩み

50周年後の近10年史の始まりとなる平成27年(2015)4月当時の学生部は、教務課、学生生活課、就職支援課、入試広報課の4課と、学生相談室、保健室の2室を設置し、学生の福利厚生に対応した。令和元年(2019)4月からは、学生部と地域活動実践センターを統括し、「総合学務センター」と名称を変更。教職協働のもと、学内外に向けた改革と改善を進めた。

令和6年度(2024)以降、総合学務センターは学び支援課、キャリア支援課、入学・地域支援課の3課で構成され、学生相談室、保健室、入試・広報室、地域連携室の4室を設置し、きめ細かな学生支援と地域貢献の充実を図っている。

教務課と学生生活課が統合された学び支援課では、学生の成長を支える支援体制の充実を目的とし、学生に総合的に対応できる体制を強化している。

就職支援課はキャリア支援課と名称を改め、効率のかつ効果的な就職支援体制の構築を進めている。

また、入試広報課は入学・地域支援課と名称を変更し、学外者による本学の教育・研究資源へのアクセス支援を行うとともに、地域に根ざした高等教育機関としての認知度向上を図り、福井県民への広報をさらに充実させている。

1) キャンパスライフの変遷

① 入学式・卒業式

入学式および卒業式は、平成27年度(2015)から平成30年度(2018)までは学外施設であるフェニックス・プラザ大ホールで実施している。

しかし、令和元年度(2019)の卒業式以降は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、入学式・卒業式ともに学内会場での実施やオンライン配信の併用など、実施形態を変更しながら創意工夫のもとに行った。



入学式



卒業式

なお、令和2年度(2020)の入学式は、新型コロナウイルス感染症の深刻な影響により中止となった。

② 卒業パーティー

卒業式終了後には、学長をはじめ多くの教職員が参加する学生会主催の卒業パーティーを実施している。

しかし、令和元年度(2019)から令和4年度(2022)までは、新型コロナウイルス感染症の影響により開催を中止した。

その後、令和5年度(2023)からは学内を会場として卒業パーティーを再開している。

令和6年度(2024)以降の卒業パーティーでは、同窓会会長のあいさつに始まり、学生会企画のイベントやサークルによる演奏などが行われている。

会場では、華やかな晴れ着に身を包んだ卒業生が恩師と写真撮影をしたり、2年間の思い出を語り合ったりする姿が見られ、終始和やかな雰囲気包まれている。



卒業パーティー

2) 教育課程および履修制度の整備

本学では、平成29年度(2017)より教育における三つの方針を策定している。また、授業外学習時間を十分に確保し、授業内容を深く身につけることを目的として、履修登録単位数の上限(キャップ制)を設け、学科・専攻を問わず各学期の履修上限を25単位に定めている。

平成30年度(2018)には、三つの方針に加えて学科・専攻ごとのカリキュラムマップを作成し、学修成果の可視化を進めた。さらに令和2年度(2020)には、従来のカリキュラムマップに加え、履修系統図を学科・専攻ごとに整備し、学生が講義概要、授業科目開講表、カリキュラムマップ、履修系統図を参照して履修計画を立てられるようにしている。

しかし、この年は新型コロナウイルス感染症の流行により、対面授業が全面的に中止となり、学生は登学を控え、Moodle を利用したオンデマンド授業による学修を余儀なくされた。

令和3年度(2021)6月からは一部オンデマンド授業を残しつつ、対面授業を再開している。

また、この年度から成績審査部会を設置し、GPAの低い学生や必修科目の不合格が続く学生に対しては保護者への通知および本人との面談を実施し、きめ細かな学修支援を行うことで退学や卒業延期の防止に努めている。

令和5年度(2023)には、教養科目・専門科目の最低履修単位を見直し、卒業要件を教養科目12単位以上、専門科目52単位以上(うち自由選択科目8単位を含む)と改定した。これにより、学生の多様なニーズに応じた授業内容の充実と科目改廃が進められた。

また、同年度からそれまで紙による履修票提出で行っていた履修登録を、学務システムによる Web 登録方式へ切り替えた。パソコンやスマートフォンからの登録が可能となり、学生本人の履修状況を容易に把握できるようになったことで、学生支援をより迅速に行える体制が整っている。

3) 課外教育の推移

① サークル活動

課外教育の中で最も活発な活動の一つがサークル活動である。

平成27年度(2015)から令和元年度(2019)までは、運動系・文化系ともに精力的な活動が展開されていたが、令和2年度(2020)には新型コロナウイルス感染症の影響により、一時的に活動休止を余儀なくされた。令和3年度(2021)からは徐々に活動を再開し、現在は主に文化系サークルを中心に活発な活動が行われている。

平成27年度(2015)から令和6年度(2024)までの間に、新規(再結成を含む)で設立されたサークルは9団体にのぼる。毎年複数の団体が新たに結成されている一方で、令和6年度(2024)時点では38団体中18団体が活動を休止している。これは、短期大学の在学期間が2年間と短いことや、新型コロナウイルス感染症による活動中断により、先輩から後輩への引き継ぎが途絶えたことが主な要因と考えられる。

学生のサークル加入率は、平成27年度(2015)の51%をピークに減少傾向を示し、令和2年度(2020)には感染拡大の影響で活動が停止した。令和3年度(2021)以降は段階的に活動を再開し、令和6年度(2024)には加入率が44%に回復している。

学び支援課では、サークル活動の活性化に向けて次のような支援策を実施している。

ア 活動補助

年額3万円を支給し、県外大会への宿泊費・交通費の1/2および競技参加費の全額を補助している。令和6年度(2024)については、活動促進を目的に補助額を6万円に増額した。

イ 課外活動奨学金

県レベル以上の大会で上位入賞した学生に対し、3万円～5千円の奨学金を給付している。

ウ 情報発信

学内ポータルサイト「仁短 Moodle」を通じて、サークル情報や活動報告を発信している。

エ 活動の充実化

教職員のサークル活動への積極的な参加や指導を促し、活動のやりがい向上を図っている。



サークル活動

② 北陸三県私立短期大学体育大会

令和元(2019)年7月6日に富山短期大学の主管で開催された第52回大会を最後に、令和2年度(2020)から令和4年度(2022)にかけての北陸三県私立短期大学体育大会は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となる。

その後、令和4年(2022)12月に開催された北陸三県私立短期大学学長会議において、同体育大会の廃止が正式に決定された。

これにより、昭和43年度(1968)以来、52年間にわたり継続してきた北三大会の歴史が幕を下ろすこととなった。

4) 学生の福利厚生

① 保健室

保健室では、学生の健康管理、メンタルヘルスケア、カウンセリング体制の充実を図り、けがなどへの応急処置、健康診断、健康相談を実施している。

健康診断では、学校保健法で定められた項目に加え、血液検査などを実施し、学生の年代で発症頻度の高い疾病の早期発見に努めている。結果として、疾病異常がみられる学生は少数であり、多くの学生が「異常なし」となっている。この健康診断を、自身の健康を見直すきっかけとし、健康で活動できる自己管理の第一歩となるよう留意して実施している。

日常的な保健室利用では、応急処置が最も多く、風邪などの内科系疾患や切り傷などの外傷対応が中心である。健康相談では、医療や生活面に関する助言に加え、心身の問題については学生相談室と連携しながら支援を行っている。

② 学生相談室

学生相談室は、メンタルヘルスケアおよびカウンセリング体制の中核として設置されており、教職員の学生相談に対する意識向上と学内情報共有を目的に、学生相談室研修会を開催している。

平成16年度(2004)からは学外カウンセラー制度を導入し、専門資格を持つカウンセラーが週2日来学して相談に応じている。

カウンセリングの啓発として、新入生オリエンテーションで学生相談室の案内を行い、平成23年度(2011)から配布していた「学生相談室通信」は、令和2年度(2020)より Web 上で配信している。

また、平成23年度(2011)以降、健康診断時の問診票を活用して学生の自覚症状を把握し、気になる学生には電話・メールによる聞き取りや面談を行っている。令和4年度(2022)からは Web による聞き取りも実施している。

令和2年度(2020)の新型コロナウイルス感染拡大時には、緊急性の高い学生に限り登学手続きを認め、感染防止対策を徹底したうえで対面面談を実施した。また、希望する学生には電話や Zoom を用いた面談を行い、支援体制を継続した。

③ 奨学金

「学びたい」という強い意志を持ちながら、経済的

理由で修学が困難な学生を支援するため、奨学金制度の充実を図っている。

本学では、日本学生支援機構奨学金の事務手続きをはじめ、本学独自の六葉奨学金、課外活動奨学金、応急奨学金制度を設けており、さらに各種奨学金情報の収集にも努めている。

令和2年度(2020)から開始された国の「高等教育の修学支援新制度」に基づく給付奨学金の対象者は、毎年おおむね1割前後で推移している。

六葉奨学金は1回生時の成績優秀者に、課外活動奨学金はスポーツ・文化活動等で優れた成果を収めた者や社会活動で顕著な実績を示した者に授与している。これらの奨学金は、学生の学修意欲や課外活動への意欲向上に大きく寄与している。

④ 学生駐車場の整備

本学は自動車通学者が多く、学内には十分な駐車スペースを確保している。

学生数の減少に伴い利用者は減少傾向にあるが、全体の約7割前後の学生が自動車通学を行っている。

年間を通じて複数回の説明会と申請受付を実施し、適正な利用を促進している。

(文責:学び支援課長 木戸公恵)

5) 入学者選抜の流れ

入学者選抜方法は、令和6年度(2024)現在、総合型選抜(旧・AO入試)、学校推薦型選抜、一般選抜、大学入学共通テスト利用選抜(旧・大学入試センター試験利用入試)、社会人選抜の5つに大別される。文部科学省の高大接続改革に即して、令和3年度(2021)入学者選抜から選抜名称の変更や選抜方法の見直しを行った。本学では特に総合型選抜、推薦型選抜での入学者が90%を超えており、本学で意欲的に学ぼうとする専願の学生が多いことが特徴である。この10年間で実施した入学者選抜制度は以下①～⑤のとおりである。

① 総合型選抜(旧・AO入試)

総合型選抜では、本学のアドミッションポリシーと志願者とのマッチングを重視する制度であり、本学では以下の3つの区分で実施している。

ア 総合型選抜A(ステップアップ型)

ステップアップの名称のとおり、入学者選抜を通して、本学とのマッチングを図り、入学後の学習に向けて意欲や能力を高める制度である。事前ガイダンスから始まり、試験は、各学科専攻の学習内容に関連した内容で実施している。本学では当該年度において最初に実施する入学者選抜である。令和7年度(2025)入学者選抜からオープンキャンパスの参加者に対して検定料割引制度を設けている。

イ 総合型選抜B(自己推薦型)

小論文(800字・60分)と面接(10分)、書類審査(志望理由書・調査書)で選考を行う入学者選抜である。面接では、提出された志望理由書と調査書を参考に、基礎学力の状況を把握するために実施しており、志望動機の確認のみならず、高校時代に身につけた多様な能力を判断している。

ウ 総合型選抜C(資格型)

生活情報デザイン専攻のみで実施している。本学が提示する生活情報デザイン専攻の学びと関連する資格を取得している者を対象としており、面接(10分)と書類審査(志望理由書・調査書)で選考を行う。面接では、取得した資格についての質問も行っている。

② 学校推薦型選抜

ア 指定校制

本学が指定する福井県、石川県、富山県の高等学校の出身者を対象に実施している。選考方法は、面接(10分)と書類審査(志望理由書・調査書)である。

イ 併設校制

仁愛女子高校の出身者を対象に実施している。

選考方法は、面接(10分)と書類審査(志望理由書・調査書)である。

ウ 公募制

本学が設定する基準以上であれば出願できる併願可能な推薦型選抜で、基礎学力検査(国語)と面接、書類審査で選考を行ってきたが、令和7年度(2025)入学者選抜からは、本入学者選抜は廃止し、総合型選抜B(自己推薦型)に置き換えることとなった。

③ 一般選抜

試験当日に実施する学力検査で選考を行っている。学力検査の内容は、令和7年度(2025)入学者選抜から「国語」または「小論文」のいずれか1つを出願時に選択する形式で実施している。平成30年度(2018)までは「国語」「英語」「数学」から1科目を選択、令和6年度(2024)までは「国語」または「数学」から1科目を選択する形式で実施していた。

④ 大学入学共通テスト利用選抜(旧・大学入試センター試験利用選抜)

大学入学共通テスト利用選抜の結果で選考を行うため、受験者が本学に受験のために来学することは不要である。一般選抜との同時出願者には検定料を割引する制度を設けている。

⑤ 社会人選抜

入学時20歳以上で、大学入学資格を有する者を対象に実施している。選考は書類審査、個人面接(15分)、小論文(800字・60分)で実施している。

その他、外国において12年間以上の学校教育を受けた女性を対象とする「外国人留学生選抜」を設けている。(文責:入学・地域支援課長 後久真嗣)

6)就職対策と現状

ここ10年、事業所の採用活動の早期化により採

用選考に関する指針(採用スケジュール等)が形骸化し、平成30年(2018)に経団連は令和3年(2021)卒以降の指針を策定しないことを決定、新たな指針は経団連から政府が主導することになった。政府からの要請という形で、広報活動開始が3月、選考活動開始が6月といった従来のスケジュールは維持されるものの、採用活動早期化の流れは止まらない。そのため、学生への支援もこれに合わせないと事業所の採用活動に間に合わず、学業との両立が難しくなっている。

令和2年(2020)より、新型コロナウイルスが国内でまん延するようになってからは、オンラインを活用するなど事業所の採用活動が様変わりした。令和5年(2023)に新型コロナウイルスは5類に移行し、対面による面接試験など従来の方式に戻る動きもあったが、一部はそのまま継続されている。令和7年(2025)卒からは採用直結型インターンシップが解禁され、就職活動の更なる早期化が進んでいる。

① 個別相談



コロナ禍における個別相談(令和4年)

オープン形式の相談コーナー2ヶ所と、他人に聞かれたくないという学生への配慮のために個室を2室設けている。ここでは、常時キャリア支援課職員によるきめ細かな個別相談を行っている。令和2年(2020)よりオンライン方式を導入し、オンライン面接の試験対策にも活用している。

② 事業所見学



ユニフォームネクスト(株)訪問(令和5年)

職業観を醸成する目的で、令和3年(2021)より生活科学学科1回生を対象に事業所見学を実施している。就職活動が本格化する前に見ておくことが大切であり、今後自主的に事業所へ訪問する際の重要な体験になっている。本企画では本学職員が引率し、福井南郵便局様や三国町にあるセーレンの研究開発センター様など、遠方へはバスを手配するなど、学生が参加しやすい環境を整えている。

③ 学内業界研究会



事業所による講義室での説明(令和6年)

生活科学学科1回生を対象に、これまで3月に本学体育館で「学内合同企業説明会」を一日で開催してきたが、就職活動早期化に対応するため、令和3年(2021)より2月に前倒し、「学内業界研究会」として本学講義室に会場を変更し、複数日を設けて開

催している。体育館で開催していた時期の平成31年(2019)に最大99社で実施していたが、方式変更および学生数の減少により令和6年(2024)は72社に絞って開催している。

④ インターンシップの科目化



インターンシップ合同説明会(令和6年)

福井県が後援している「ふくいインターンシップ」に、生活科学学科1回生を対象に参加を促してきたが、令和3年(2021)より「インターンシップ」科目として単位化されている。それに伴い学科教員と連携しながら積極的に参加を呼びかけるようになり、現在では就職活動の一環になっている。科目化される前の令和2年(2020)は14名の参加だったが、令和6年(2024)には66名になっている。

⑤ 採用担当者との意見交換会を実施



オンラインによる意見交換会(令和3年)

令和2年(2020)より、毎年オンラインで学科・専攻の教員と事業所の採用担当者で意見交換の場を設け、求める人材像や学習成果等について話し合った。

令和5年(2023)より、生活科学学科は学内業界研究会と並行して参加企業の採用担当者とグループワーク形式で意見交換会を実施している。一方、幼児教育学科は、令和6年から実習訪問で伺った際に担当教員が園・施設の責任者と個別面談形式で実施している。

(文責:キャリア支援課長 高森武司)

7) 学生会活動

① 学生会の組織

学生会は、会員相互の自治と協力により教養の向上を図り、教職員との連携のもとに健全な学生生活を築くことを目的としている。また、本学の教育理念の具現に寄与することを使命として活動している。

本学に在籍する全学生を会員とし、学生会を代表する役員を各学年4名ずつ選出している。これらの役員は、学生生活全般に関わる行事や活動の企画・運営にあたっている。

② 学生会主催の主な行事

学生会は、大学祭(仁短祭)をはじめ、役員選挙、総会、リーダー研修会、卒業記念パーティー、AH企画など、さまざまな行事を主催している。主催行事以外にも、入学式・卒業式、健康診断など学校行事の補助を行い、学生生活全体の円滑な運営に貢献している。

また、学生ニーズの把握を目的として、年度末に「学生会主催行事等に関するアンケート」を実施し、学生生活に関する意見や要望を聴取している。その結果をもとに、「学長と学生会との懇談会」において意見交換を行い、より良い学生生活環境の構築に努めている。

③ 仁短祭

学生会が最も中心的な役割を担う行事が大学祭「仁短祭」である。

仁短祭は毎年10月に開催され、6月頃から学生会役員と仁短祭実行委員会が中心となって準備を進めて

いる。各クラスの模擬店や展示、サークルによる発表・展示、学生会企画のステージイベントなど、多彩な内容で構成され、毎年大いに盛り上がりを見せている。

平成21年度(2009)からは、幼児教育学科による子ども向けアトラクション「じんあい こどものくに」も同日開催され、多くの地域来場者で賑わっている。

平成27年度(2015)から平成29年度(2017)までは土・日の2日間で開催されていたが、平成30年度(2018)からは土曜日1日の開催となっている。

さらに、令和2年度(2020)から令和4年度(2022)までは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、オンライン開催や実施規模の縮小などの対応を余儀なくされた。令和5年度(2023)には、制限のない形で開催を再開している。

しかし、学生数の減少により、「じんあいこどものくに」と他のステージイベントとの運営バランス、予算規模の縮小など、今後の課題も残されている。

また、新たな学生主体のイベント創出を目的として、平成28年度(2016)からは12月に「JINTANSAN IN SHIWASU」を開始し、年2回の大学祭開催を通じて、さらに活気ある学内イベントづくりに取り組んでいる。



仁短祭実行委員



仁短祭

(文責:学び支援課長 木戸公恵)

4 地域との連携

1) 活動の歩み

福井県内唯一の「女子」「短期大学」である本学では、地域に根差した高等教育機関としての社会貢献の一環として、地域と連携した活動の展開、公開講座の開講、教員の講師派遣活動など、大学が持つ資源を活用した取り組みを実施してきた。

その活動の記録は機関誌『SOCIUS』として、毎年発行されている。本誌名はラテン語の「仲間」、「友」を意味し、禿正宣学長により名付けられた。

近10年の『SOCIUS』を通覧してみると、令和2年度(2020)はコロナ禍により公開講座の開催を中止するなど活動の縮小を余儀なくされたが、困難な状況の中でも地域社会のニーズに応えるべく工夫を凝らしながらその歩みを進めてきたことが読み取れる。

本学の組織改編により、令和元年度(2019)から地域活動実践センターを廃止し、総合学務センター入学・地域支援課が地域との連携の窓口を担うこととなった。

以下に平成28年度(2016)から令和6年度(2024)に至る本学の地域活動をまとめた。

① 近10年の新たな取り組み

ア 永平寺町との包括連携協定の締結

平成 30年(2018)5月15日、永平寺町と仁愛女子短期大学は「包括的連携に関する協定」を締結した。自治体等との連携協定は、平成 22年(2010)に森田地区まちづくり協議会とのあいだで、また平成 27年(2015)に福井市とのあいだで締結したのに続き、3例目となる。協定の目的は「永平寺町の地域資源を活用し、綿密な相互連携のもと、仁愛女子短期大学の専門知識・研究機能を地域の課題解決に活かし、活力ある地域社会を実現するため」(「協定書」より抜粋)となっている。そしてこの目的を達するために、これから「地域社会の活性化及びそれに資する人材の育成」、「地域文化に即したまちづくりへの情報収集と発信」、「食を通じた健康づくりの支援」、「質の高い幼児の教育・保育環境の整備と子育て

支援」等に関して、連携し協力して取り組むことになった。



永平寺町との包括的連携に関する協定締結式

イ 「保育研究合同発表会」を福井市と共催

福井市と本学との包括連携協定のもと、「保育研究合同発表会」を本学幼児教育学科と福井市子育て支援課の共催で令和元年度から毎年開催している。

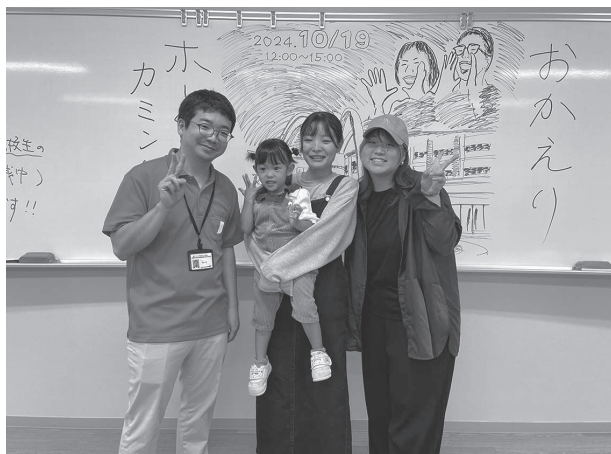
共催の目的は、幼児教育学科が学生の学習成果を学外に発信する事業の一環として実施していた「幼児教育学科発表会」と、福井市子育て支援課主催の福井市内の公私立保育園による「保育研究発表会」を合同で開催することで、保育者の卵である学生と現職保育者が互いの学びをより広く、深くすることであり、毎年有意義な発表会となっている。



現職保育者の前でポスター発表をする本学学生

ウ 幼教ホームカミングデー

本学幼児教育学科の卒業生は、60年近くになる歴史のなかで8,000名以上にのぼり、多くの方々は、卒業後、福井県内において保育・幼児教育関連の仕事に就いている。そこで、近10年の卒業生を主な対象とする「ホームカミングデー」を令和5年度(2023)から開催することとした。当日は、卒業生同士や教員と現在の仕事や生活のことなどについて話し合うなど、旧交を温める場となっている。また、開催日「仁短祭」と同日にしたことで、卒業生が我が子と一緒に来学し、「仁短祭」における子ども向け企画「じんあいこどものくに」(幼児教育学科在学生担当)に参加するなどの交流も生まれている。



幼教ホームカミングデー

② 継続している取り組み

ア 公開講座

本学の有する知的財産を地域社会に還元する活動の一つとして、公開講座を毎年開講している。広く一般を対象としたものから、親子向けや保育者向けの講座など、本学ならではの生活や子育て等に関連した内容が中心である。(近10年の公開講座の実施詳細についてはP145～147を参照されたい。)

イ 講師派遣

本学では、地域や現場の要請に応じて、専任教員を講習会・研修会などへ派遣している。



公開講座「親子でデコレーションケーキづくり」

ウ リカレント講座

生活科学学科では「管理栄養士国家試験対策リカレント講座」毎年15回程度継続実施している。

幼児教育学科では、本学を前年度に卒業した卒業生を対象に「新人保育者スキルアップ講座」を継続実施してきたが、上記の「幼教ホームカミングデー」開催に伴い発展的に解消した。

2) 特色ある活動実践

① 森田地区との連携

本学が立地する森田地区は、著しい人口増加の対応として“新旧住民の交流促進”、そして北陸新幹線開業に伴う在来線の第三セクター化への対応として“駅の活性化”の2点が地域課題となっており、本学教員と学生が、これらの課題解決に向けた地元の取り組みの支援を行っている。地域の交流イベントである「森田文化祭」や「もりのわフェスタ」等の地域の交流イベント、森田駅の活性化に向けた取り組みである「森田駅活用検討ワークショップ」、「駅活用社会実験 MoRe:Sta.」に本学教員と学生が参加するなど、毎年相互に連携・協力して様々な事業を行っている。その他、森田駅構内に地域住民と本学で分担して掲示を行う「夢ギャラリー森田」や、森田地区住民に対する本学附属図書館の利用サービスなども継続して実施している。



もりのわフェスタにて学生が地域の子ども向けイベントを実施

② 保育の魅力発信事業

中学校や高校、保育現場と連携して、保育者や保育現場の魅力を発信する活動を行っている。保育者の仕事を体験する「保育現場体験ツアー」や、高校生が各自で保育に関するテーマを設定し探究活動を行う「保育の課題探究」など、キャンパスに隣接する仁愛女子短期大学附属幼稚園や仁愛保育園で実際に子どもたちや保育者と交流しながら開催している。本学の充実した学習環境を活用して、将来の福井の保育を担う人材となる中学生や高校生に、「保育」への興味・関心や学びを深めてもらう機会を提供している。

(文責：入学・地域支援課長 後久真嗣)



森田駅活用ワークショップに本学学生が参加



保育現場体験ツアーで高校生が幼稚園児と交流

5 施設設備の整備拡充

1) 2015年度～2019年度

平成26年度(2014)から始まった3ヵ年計画により、平成27年(2015)4月から幼児教育学科関係のE館とB館3・4階がリニューアルされた。

平成27年度(2015)は、C館南側に新館を増築した。新館には、1・2階に学生や本学を卒業した同窓会の「交流の場」となるよう、学生ホール、カフェテリア、同窓会室や学生会室を配置した。3・4階には講義室を配置した。その他、体育館の耐震改修とC館の改修を行った。

平成28年度(2016)には、開学当初より50年にわたり本学の正面エントランスとしての役割を果たしてきたA館を取り壊し、跡地に50周年記念モニュメントを整備した。また、B館1・2階には管理施設を配置し、A館の機能をC館(新館)とともに移行した。更に、B館・C館・新館・E館2階を渡り廊下で接続し、学内移動の利便性の向上を図った。

3ヵ年計画の施設設備整備拡充で、50周年を迎えた仁愛女子短期大学が、学生や教職員がより安全で快適に学習、教育・研究できる環境が整い、施設としても新たな一歩を踏み出すことができた。

○平成27年度(2015)

- ・ C館増築
- ・ 体育館耐震改修
- ・ C館既設改修

○平成28年度(2016)

- ・ B館1・2階改修
- ・ B - C館間 渡り廊下
- ・ 守衛室・玄関改修工事
- ・ A館解体

○平成30年度(2018)

- ・ F館西側改築



完成したC館(新築)外観



整備された学生ホール・カフェテリア



50周年記念モニュメント



ロスナイ整備



無線 Wi-Fi 整備



パソコン演習室(C102・C108)機器更新

2) 2020年度～2024年度

令和2年(2020)から令和4年(2022)にかけ、新型コロナウイルス感染症が流行し、感染症予防のための設備とオンライン授業に対応するための ICT 環境を優先的に整備した。

令和2年度(2020)は、C館1・2階の廊下や照明の改修を行った。また、新型コロナ対策として、B館・C館・E館で換気が不十分な講義室等にロスナイを整備したり、パソコン演習室の混雑を緩和するため、2教室を映像・音を双方向で受信出来るようにした。

令和3年度(2021)には、学内に無線 Wi-Fi(AP)を整備し、学生が持参した端末や学生に貸し出した PC を学内全てで使用出来るネット環境を構築した。図書館の業務システム更新や公用車入替も行った。

令和4年度(2022)は、パソコン演習室(C102・C108)の PC や音声映像装置を更新した。また、B館4階大講義室の空調機、LED 照明、 프로젝터를整備した。

令和5年度(2023)は、令和6年(2024)元日の能登半島地震の影響でC-E館渡り廊下のエクステンションジョイント補修工事を行った。

○令和2年度(2020)

- ・ C館1・2階廊下他 改修
- ・ B館・C館・E館等換気設備増設

○令和3年度(2021)・

学内無線 Wi-Fi(AP) 整備

○令和4年度(2022)

- ・ B館大講義室空調他 整備
- ・ C館パソコン演習室用 PC、音声映像装置更新

(文責：福岡昭雄)

6 情報資源センター

平成30年度(2018)より、情報メディア教育支援室と附属図書館が統合され、情報資源センターが設置された。情報資源センター長が附属図書館長を兼務している。

1) 情報メディア教育支援室

① 活動のあゆみ

校内の組織の改編により平成17年度(2005)から新たに設けられた情報メディア教育支援室は、令和7年度(2025)で20年目となる。

情報メディア教育支援室の業務は、本学の情報インフラの管理運営と本学学生及び教職員への ICT 利活用のための運用支援である。

主な業務は、

ア パソコン演習室の管理と運用

イ サーバ・ネットワーク設備の管理と運用

ウ 学生・教職員における学習支援

エ ラーニングコモンズの環境整備

オ IT 資産活用のための講習会の開催

カ 各種検定試験の運用支援

等である。

支援室スタッフは、学生に対する教育支援環境を充実させてきた。知識の向上に努め、学生に対して円滑な支援ができるような姿勢を常に心がけている。

② 学内整備の実態

情報メディア教育支援室で整備している学内設備は、C101室(サーバ室)、C102室(演習室)、C108室(演習室)、C201室(ラーニングコモンズ)、C202室(情報メディア教育支援室)、C207室(アクティブラーニング室)、B411室(CG室)である。

C101室には、サーバ・ネットワーク機器が集約されている。C102、C108、C207は PC を利用する授業に対応できるよう、PC には Windows 及び MS-Office のソフト以外に、授業に必要なソフトがインストールされている。なお、C102室は MOS 試験会場

としても機能する。本学学生が MOS 試験を受験する場合、普段学習している環境と同一環境下で受験できることは、心理的な安心感に繋がると考えられ、大きなメリットと考える。

C201はラーニングコモンズである。最新の PC 環境が整備されるほか、プレゼンテーションのためのホワイトボードやプロジェクター、打ち合わせができるフリースペースが設けられ、日々積極的に活用されている。

C202は情報メディア教育支援室である。ここに支援室スタッフが常駐している。学内 WiFi の利用申請に関して、Moodle に関して、MOS 試験受験に関して、Microsoft365に関して、貸出用ノート PC に関して等、様々な IT リソース活用のための運用支援に努めている。いわゆる、後方支援部門に属するが、本学では C202のラーニングコモンズと同様にガラス張りの見通しの良い設計になっていて、学生が気軽にアクセスしやすい環境であり、非常に良い環境に恵まれている。

B411は CG 室である。この部屋の PC は Mac で構成され、Illustrator や Photoshop、マイホームデザイナー等、デザイン関係の授業で利用するソフトがインストールされている。

その他、学内全体に関係するものとして、ネットワーク整備がある。この10年を振り返ると、無線環境が飛躍的に充実したといえる。2021年度には全学的な BYOD の推進に伴う、無線統合環境の設備が行われた。アクセスポイントも大幅に増強され、すべての棟で切れ目のない学内 WiFi 環境を提供することに成功した。学生・教職員の PC は情報メディア教育支援室に接続申請することで、セキュリティが担保された無線 WiFi 環境を享受することが可能になった。今では、ほぼ100%の学生が自身のスマートフォンを学内 WiFi に接続している。

その他、2020年度に福井情報スーパーハイウェイ(FISH)を利用し、NTT 大手町にある福井アクセスポイントへ1Gbps で接続、高速でインターネット通信が可能になった。その頃、新型コロナウイルス(Covid-19)が、世界中で猛威を振るっていた。学

生・教職員はオンデマンド型の授業形態を余儀なくされたが、ストレスなくテレビ会議ソフトや YouTube に大容量の動画のアップロードに対応でき、大きな山を乗り越えることができた経験は、その後、支援室スタッフの自信につながった。

③ 今後の展望

2012年に、現在の AI ブームの火付け役となった 畳み込みニューラルネットワークが発表された。それ以降、再び AI に大きな期待が寄せられるようになった。それまで AI というと基礎研究のイメージがあり、一般の方にはとつきにくいものであった AI も今では実社会でうまく活用していくためのスキルが求められるまでになった。2022年に OpenAI 社が発表した ChatGPT の登場は人々を驚かせ、生成 AI の可能性を更に広げる契機となった。OpenAI 社は Microsoft に巨額の投資を受けるほか、ChatGPT の技術は Copilot for Windows に組み込まれ、既に Microsoft のサービス群として商品化されている。

令和6年度(2024)、情報メディア教育支援室では「新プラットフォームへの対応と教育体制の充実」という目標を掲げた。ここでいう新プラットフォームとは、Microsoft365やその中のサービスである Teams 等のクラウドサービスを指す。結局のところ、Microsoft のような大手 IT 企業は、過去にも Skype、Hotmail 等、その時代のリーダー企業を買収してきた経緯がある。それらの企業のサービスは Microsoft365という統合サービス内に組み込まれてきた。また、仁愛女子短期大学で2000年代から利用している Moodle は今では LMS の代表格となり、最近では Teams と連携するプラグインも登場している。このような背景から情報メディア教育支援室においては、時代の変化に対応したサービスを提供していくため、既存のインフラ環境を見直しつつ Microsoft365 に代表されるようなクラウドサービスをスムーズに利用できる環境整備を行う。また、クラウドサービス利用に伴うハード面(BYOD 環境の提供)とソフト面(情報リテラシーの教育体制)の充実を図りたい。

支援室のスタッフは、学生が本学の情報環境や IT 資産を活用した授業を受け卒業後の仕事に役立てることができるよう、教職員にはよりよい教育支援サービスを提供できるよう日々努力を継続していきたい。

(文責：辻岡和孝)



C102(演習室)授業風景(令和6年度)



B411(CG室)授業風景(令和6年度)



Moodle 講習会風景(令和2年度)

2) 附属図書館

① 活動のあゆみ

平成27年度(2015)より入口が変更になり、それに伴う書架の再配置や、机の移動を実施した。館内面積は変わらず、789.7㎡、座席数は78席である。

令和元年(2019)8月23日に「自動貸出返却機」を導入した。この導入により、カウンターに職員が不在でも利用者がスムーズに貸出・返却を行えるようになった。また、利用者のプライバシーを守れるという利点もあり、サービス向上の一助になると考えた。この「自動貸出返却機」は、非接触で図書の貸出・返却ができるため、新型コロナウイルス感染拡大防止対策の一つになった。図書館が実施した新型コロナウイルス対応については、「第三部 企画2. コロナ禍の短大生活」で詳しく後述する。

令和元(2019)年度から令和2年度(2020)にかけ、学修の利便性の向上のため、国立国会図書館の図書館向けデジタル送信サービスに申込み、絶版等の理由で入手困難な資料を仁短図書館内で利用できるようにした。

福井大学が中心となって運営していた「福井県地域共同リポジトリ」が令和6年(2024)8月に終了することに伴いデータ移行を開始し、令和6年(2024)3月に「仁愛大学・仁愛女子短期大学リポジトリ」を開設した。図書館HPの「機関リポジトリ」部分にリンクを貼っている。ここで、学内研究成果物(紀要等)を公開している。

令和6年(2024)より『60年史』の編纂、令和6年度(2024)は福井地区大学図書館協議会の会長校を務め、小林恭一館長の講演会を8月に開催した。11月より、「利用状況照会」(自分の貸出・予約状況を確認できるサービス)を図書館HPより利用できるようにした。

引き続き、図書館ポイントカードサービス制、図書館サポーター制の運用、最多図書利用者の表彰、月1回の企画展など魅力ある図書館づくりに努めた。



「自動貸出・返却機」

② 図書館利用状況

学生の図書貸出冊数・来館者数の推移は表1の通りである。学生の図書館離れが徐々に進行していく中、次に挙げる図書館利用促進の活動を実施している。

表1 図書貸出冊数・来館者数の推移

年度	図書貸出冊数	学生一人当たりの貸出冊数	来館者数	学生一人当たりの来館数
2015年度	10,790	19.8	17,962	32.8
2016年度	11,392	20.7	24,343	44.2
2017年度	9,480	17.3	23,310	42.4
2018年度	8,544	16.2	21,494	40.7
2019年度	6,760	14.1	18,388	38.3
2020年度	2,715	5.9	7,285	15.9
2021年度	3,766	8.2	12,037	26.1
2022年度	3,603	8.4	11,489	26.9
2023年度	4,758	12.2	11,866	30.3
2024年度	3,673	10.7	10,460	30.5

③ 図書館利用促進の活動

ア 利用者教育(平成17年度(2005)～現在)

新入生対象の「図書館利用講習会」は平成17年度(2005)から、2回生対象の「文献検索講習会」は平成19年度(2007)から開催している。文献検索講習会は、卒業研究・レポート作成に有用な資料をインターネットから効率的に検索する方法を学習するものである。

イ 企画展示(平成22年度(2010)～現在)

これは、毎月1回テーマを設定し、そのテーマに応じた図書の特設配架棚で展示するものである。また、テーマはその時期に適したものにしている。

ウ 最多図書利用者の表彰制度

(平成22年度(2010)～現在)

一つは、1年間で本館の図書を100冊以上利用し、かつ最多の者を1回生1名、2回生1名をそれぞれ表彰する制度、もう一つは、2年間で本館の図書を200冊以上利用し、かつ最多の者を1名表彰する制度である。

エ 図書館サポーター制

(平成23年度(2011)～現在)

図書館サポーターの学生には、選書してもらい図書のPOPを書いてもらっている。サポーターが選書した図書は、貸し出しも非常に多く人気のコーナーである。

オ 図書館ポイントサービス制

(平成24年度(2012)～現在)

これは、図書館資料(図書・雑誌・CD・DVD)の貸出、図書館の開催行事等に参加するとポイントが付与される制度である。ポイントの付与は返却期限が遅れていない図書等に付与するため、延滞本の減少にも一役買っている。

カ 「青空文庫」表紙コンテスト

(平成25年度(2013)～現在)

Web サイト「青空文庫」には著作権の切れた古い文学作品が掲載されている。コンテストでは、この中から毎年3作品を選び、「読んで感じたこと、心に残ったことを他の人がその作品を読んでみたくなるような表紙イラストに仕上げ、応募してもらうものである。受賞者には、副賞として図書券と作品を表紙にした文庫本を贈呈する。令和6年度(2024)で12回目の開催である。

④ 図書館対外活動

ア 森田地区への貸出

森田地区への貸出は平成25年(2013)1月4日から開始した。図書館の利用カードの作成数は131名である。

イ 福井地区相互協力

平成20年(2008)12月17日に福井県立図書館との相互協力協定を締結し、福井県内公共図書館、大学・短期大学・高等専門学校それぞれの図書館が所蔵する資料を有効に活用し、利用者へのサービスを向上させ、地域社会に貢献している。また、令和2年度(2020)から石川県・愛知県・岐阜県の図書館からも貸出が可能になった。

⑤ その他の活動

図書館運営委員会は生活科学学科2専攻からそれぞれ1名、幼児教育学科から2名、図書館長、図書館職員の7名で構成されている。本委員会は、「学生のための図書館備付用図書」の予算、青空文庫表紙コンテストの審査、図書館運営のサポートなどを担っている。

図書館利用規則の改正は、令和2年(2020)11月に国立国会図書館のデジタル化資料サービスへの承認申請のため、送信資料の複写に関して明記する必要があるため改正した。また、令和5年(2023)9月には、利用資格と館外貸出の見直しをした。

今後、学外利用者の範囲を拡大し、地域連携・地域貢献を図っていきたい。

(文責：竹下真弓)



第12回優秀賞受賞の3作品

7 点検評価推進室

本学は、近10年の間に一般財団法人短期大学基準協会による第三者評価を受審し、令和3年(2021)3月に「適格」と認定された。

以下に近10年間の本学の自己点検・評価活動の歩みを振り返る。

1) 自己点検・評価活動の概要

本学では、全学的な取り組みとして、評価項目ごとに独自の PDCA シート(EXCEL のシート)を作成しこのシートを用いて PDCA サイクルを活かした自己点検・評価を実施している。上記 PDCA シートを用いて、9月に中間評価、3月に達成状況を総括した最終評価を実施し、各点検評価項目を検討することで教育の質保証のための取り組みを行っている。

年度当初の教育計画キックオフ会および夏季休業期間の自己点検評価研修会の詳細については以下の通りである。

① 教育計画キックオフ会

学長をはじめとする各部局長が、その年の重点目標を教職員に向け発表する「教育計画キックオフ会」を年度当初に毎年実施している。

この会は、前述した PDCA シートの P(計画)の内容を全教職員が認識することで、学内の事業概要の共通理解を深め、より実りのある教育活動を展開する機会となっている。

令和2年(2020)4月の教育計画キックオフ会は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止となったが、各部局の目標及びアクションプログラム(スライド資料)は例年通りに作成し、共有フォルダを全教職員が閲覧することで、教育計画キックオフ会の代わりとした。

令和3年(2021)と令和4年(2022)の教育計画キックオフ会は、オンライン会議形式で開催し、令和5年(2023)からは対面形式で実施した。



教育計画キックオフ会 (平成27年(2015)4月)

② 自己点検・評価研修会

自己点検・評価の一環として、学内教職員向けの研修会を実施している。

平成27年度(2015)には、大阪大学教育学習支援センター副室長の佐藤浩章准教授をお招きし、4月に「3つのポリシーの開発と一貫性構築手法」、また9月には「授業時間外学習を促すシラバス作成法」と題した研修会を開催した。

平成28年度(2016)は(株)ハウインターナショナルより「戦略的に「教育の質保証」に取り組むとは?」「いま求められる卒業時の質保証」を9月に2回ご講演いただいた。

平成29年度(2017)9月4日は、短期大学基準協会事務局長の松ヶ迫和峰氏をお招きし「第三者評価機関の認証評価について」ご講演いただいた。

令和元年度(2019)の研修会は、令和2年(2020)1月に本学職員の山崎氏より「評価員視点を交えた報告書の作成について」の講義後、グループワークを行った。

本学ではこれらの研修内容をふまえ、より本学に即した3ポリシー(アドミッション・カリキュラム・ディプロマ)とカリキュラム・マップ(各科目ごとの DP 比率)について定めた。



カリキュラム・マップ作成研修会 (平成27年(2015)9月)

2) 平成30年度(2018) 飯田女子短期大学との 相互評価について

飯田女子短期大学との相互評価は、両短期大学の自己点検・評価の結果を持ち寄り、相互評価を行うことにより客観的な評価を行い、各々の運営、教育等にフィードバックするとともに、その結果を公表することにより自己点検・評価の客観性を高め、両短期大学の教育の一層の向上を図ることを目的とするものである。

平成30年(2018)9月4日に飯田女子短期大学へ本学の教職員が訪問し、9月11日には飯田女子短期大学の教職員が本学を来訪され、学内視察、質疑応答を行った。

相互評価の結果である『仁愛女子短期大学・飯田女子短期大学相互評価報告書』を平成31年(2019)3月に作成し、短期大学基準協会へ提出した。



相互評価(飯田女子短大に於いて)



相互評価(仁愛女子短大に於いて)

3) 「一般財団法人 短期大学基準協会」による 認証評価

認証評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質保証を図り、短期大学の主体的な改革・改善を図ることにある。

本学では、令和2年度(2020)に(一財)大学・短期大学基準協会が実施する認証評価を受審した。その結果、令和3年(2021)3月12日付で、「適格」と認定された。



認証評価オンライン会議 (令和元年(2020)10月)

4) 今後の活動

令和7年(2025)は、飯田短期大学との第4回目の相互評価を実施する。

その準備として、失われた職員間の信頼関係の再構築を行い、その上で自己点検・評価報告書の作成、訪問調査や評価案の作成を各学科・部局の協力を得ながら進めていく予定である。

また、本学では、短期集中大学としての使命を再認識し、教職員が一丸となって日々の改革・改善に努めながら、教育・研究活動に邁進し、本学の存在価値を改めて考え、さらなる発展を目指していく所存である。

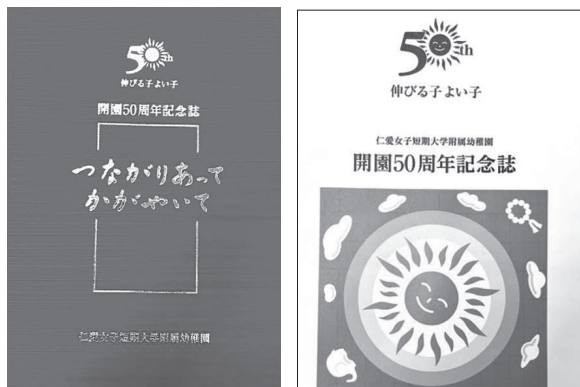
(文責:中尾繁史)

8 附属幼稚園

1) 幼稚園の歩みと現状

① 開園50周年記念事業新園舎建築

開園50周年記念事業として、新園舎を建設することが決定された。これに伴い、平成28年(2016)5月7日(土)には、旧園舎前の駐車場に設けられた仮設園舎へ一時的に移転した。平成29年(2017)2月19日(日)には、園児、保護者、関係者の皆さまをお迎えし、新園舎の完成を祝う「落成式」を挙行了した。



詳細は開園50周年記念誌に

旧園舎から仮設園舎へ引っ越しをする日は、保育参観だった。園児とその保護者の方々と一緒に、思い出いっぱい保育室に「今までありがとう!」と言いながら掃除をしたことを覚えている。仮設園舎には、今まで保育室にはなかったエアコンがついていて思いのほか、快適だったことに幸を感じた。夏は、みんなで「暑いー!」と言いながら、扇風機をまわしたり、うちわで涼をとっていた日々が今では懐かしい。約1年間、仮設園舎から新園舎が出来上がっていく様子を、みんなでワクワクしながら見ていたこと、そして完成披露の日は、気持ちのいい空の下でテープカットをしたことも思い出として私の心に、しっかり残っている。

(文責：木下奈々美)

新園舎に初めて入った日、天井がとても高く開放的で、大きさのそれぞれ異なる球体のおしゃれな照明が飾られた「いのちとひかりのホール」が私たち職員を迎えてくれた。「本当にここが仁愛幼稚園?」と驚

くと同時に「また今日から子どもたちと一緒に新しい幼稚園が始まる」と20代後半だった私が子どもの頃に戻ったかのようにとてもワクワクしたことを覚えている。大きくて真っ白な保育室や廊下の壁は、「子どもたちとどんな製作をして飾ろうか」と想像するだけで楽しくなった。廊下のロッカーには子どもの目線だからこそ見える、気がつける部分にクラスカラーが施されていて…。細かな部分にまでこだわって作られた新しい園舎に感動したことを覚えている。

(文責：木村育美)

② 開園50周年記念

平成29(2017)年3月4日(土)に、西川一誠福井県知事をはじめとする官公庁関係、防衛大臣稲田朋美(代理)、衆議院議員高木毅をはじめとする議会関係者併せて28名。また、仁愛学園、教育関係者併せて130名を超える来賓をお迎えして開園50周年記念式典を短大体育館で行い、式典の後、新園舎の見学を行った。

③ 第59回全国学校体育研究大会福井大会プレ大会 令和元年(2019)11月14日(木)

「心と体を動かして楽しく遊ぼう」をテーマに、色々な遊びや物事に幼児が自ら関わっていくための環境の構成と教師の援助について考える」を研究主題に掲げ、福井大会プレ大会幼稚園部会の発表園として公開保育を行った。公開保育開催に向けて、「公開保育を活用した幼児教育向上システム(ECEQ)」を導入して取り組んだ。

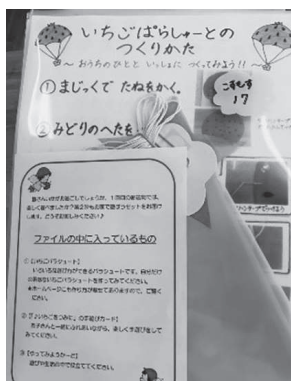
④ 新型コロナウイルス猛威を振るう

令和2年(2020)4月、緊急事態宣言の発出で街から人影が消えるような事態となり、JRの駅や電車にもほとんど人が見られなくなった。幼稚園でも開園以来、初めて入園式を6月に延期する緊急措置をとり感染予防にあたりと共に、担任からの手紙と共に親子での製作材料セットなど、家庭で過ごす園児達への対応に追われた。また、園再開に向けて、体育

館や保育室など、園児が集まる場所は密集しないように、シールでポイントを打ったり、給食時の一人ひとりの動物型の透明シールドを作成するなどして感染対策を徹底し園児を迎えた。



ビニールで仕切りを作った職員室



家族で過ごす子ども達へ…郵送



家庭の協力もあり、家族などからの感染者は出たものの、園児が感染元となるクラスター（集団発生）は防ぐことができた。

（文責：佐竹 了）



コロナ禍の園内

消毒作業



⑤ 令和2年(2020)6月ようやく1学期始まる

ソーシャルディスタンスに全員マスクというこれまで見たことのない景色が園内に広がった。保育中の身体接触は心の安定にも必須であり、連日園舎内は感染の危機にさらされる日々が続いた。参観日を初め園行事は全て縮小される傾向が強まっていった。給食の前の机の消毒はもとより、降園後に使った物全てを消毒する日が続いた。

10時からの誕生会で、体育館には保護者の方も集まっている丁度その時、園児の感染情報が入り、直前で中止になったこともあった。コロナ対応はそれほどまでに徹底していた。

⑥ インクルーシブ教育の実現に向けて

令和3年(2021)4月。医療的ケア児入園。入園に際しては、前年度より看護師の募集に奔走すると共に、当時私立幼稚園にだけ看護師雇用の補助金が無かった。また、小児医療の看護師は県の看護協会を通じての募集も、なかなか集まらない状況だった。学園単独の予算化で看護師を雇用し、週三日の登園からスタートした。職員の心配をよそに、登園日初日から、園庭で「はないちもんめ」に加わる姿が見られた。本園の子ども達に障害という「概念」がないということ。あるとすれば、それは周りの大人が育てていくものだとすることを初日の子ども達の姿から教えられた。

⑦ 医療的ケア児支援法成立 令和3年(2021)6月

支援法成立を前に医ケア児の受け入れをしていた本園の様子と、看護師募集の窮状などを伝える日本教育新聞の特集。



日本教育新聞 R3.6.14



医ケア児の登園を待って、バギーとバックを持って一緒に部屋に

大人の私は「先入観をもちすぎていた」と、幼児たちの姿から学ぶことばかりだった。幼児たちと共に成長しはじめた私は、意識しなくても他の幼児と同じようにレイちゃんに声を掛け、保育の中ではなるべくみんなと同じ経験を楽しめるように考えるようになった。そうするうちに、声を掛けると私の顔に触れようとしたり、声に反応して微笑んだりするようになり、心が通っていることを感じてとても嬉しかった。

他の子よりどうしても欠席は多くなりがちなレイちゃんだったが、みんなは他の子と同じように欠席の日は毎回心配をした。運動会、生活発表会の前に入院をすることになり、「レイちゃんと一緒にしたい」「みんなでしたい」と応援の手紙を書く幼児もいた。どちらの行事も当日まで参加できるか危ぶまれたが、レイちゃんとみんなのパワーが重なり無事参加できた。幼児の気持ちが一つになり、みんなの願いが叶ったこのことは、私にとって1番印象的な出来事となった。

決してレイちゃんは特別な存在ではなく、レイちゃん対みんな、Aくん対みんな、Bちゃん対みんな…どれも同じ、対等であることを、担任を経験して、たくさんの人に分かってほしいと強く思った。

レイちゃんとレイちゃんのご家族から学んだことは、「日常が当たり前ではないこと」だ。これを1番考え、感じた1年間だった。入園できること、日常を送れること、行事に参加できること、みんなで一緒に過ごせること…つい、

医療的ケア児レイちゃんを担任して

令和4年(2022)

新しいクラスでの生活がはじまり、幼児も私もレイちゃんの様子をうかがっていた。そのうち、幼児はレイちゃんのバギーが押したくて、時々めめながらバギーを押すようになった。登園時間の9時になるとバギーを押すことを勝ち取るため、急いで玄関に迎えに行った。幼児がレイちゃんのことを少しでも理解できるように、担当看護師から話をしたり、胃ろうの絵本『ちーちゃんのおなかのあな』を読んだりすると、レイちゃんのそばで姿を観察したり、胃ろうからの食事を見守ったり、胃ろうの絵本を自分から読んだりするようになり、単なるバギーを押すという活動以上の姿が見られるようになった。次第に、胃ろうからの食事を見守りながら「レイちゃんおいしい?」「甘いでしょ?」と、声を掛けたり、自然に体に触れたり、活動の中でレイちゃんとペアを組んだりするうちに、子どもたちがレイちゃんとごく自然に関わるようになった。

当たり前になってしまう全てが有難いことで奇跡である。

今、私自身が母になり思うことは、レイちゃんのご家族の行動力の素晴らしさだ。親が子どもを思う気持ちは計り知れない。でも、子どものために未知なることに行動を起こせるか、これは誰でもできることではないと思う。「地域の幼稚園に通わせたい!」この思いから、前例のない行動に出られたご家族を心から尊敬する。また、そんなご家族をもっとサポートできたのではないかと考える。これから保育の仕事をしていくいろいろな子ども、ご家族と出会うことになると思うが、いつも寄り添い、励まし、一緒に最善を考えられる保育者になりたいと思う。

(文責：高石まゆ)

⑧ 第14回幼児教育実践学会研究発表賞受賞 令和5年(2023)8月19日

『新しい時代をのびやかに生きる』『社会に開かれた質の高い幼児教育』をという大会テーマの下、全日本私立幼稚園幼児教育研究機構主催による見出しの発表会が東京大妻女子大学において開催された。本園から、『互いに育ちあうインクルーシブ教育の原点は幼稚園から一医療的ケア児と一緒に』というテーマで、全介護を必要とする医ケア児とのかかわりの中で育つ学級集団とその保護者についてポスター発表し、研究発表賞を受賞した。

⑨ ECEQ公開保育 令和5年11月17日

ECEQ(公開保育を活用した幼児教育の質向上システム)認定は令和2年6月に受けていたが、県内初2回目の公開保育に向けて、5月13日(月)ステップ1のトップリーダーヒアリングを皮切りに、各学年が抱える課題を絞り込んでステップ4の公開保育に臨んだ。



公開保育に向けたステップ2研修 令和5年(2023)5月25日(土)



公開保育 すーばーきらきたいむ

⑩ 公開保育 令和6年(2024)11月7日(木)

当日はコーディネーターの先生方をお招きし、参加者と共に当園の良さや課題に向き合い、活発な話し合いが行われた。さらに事後研修では、自園として今後伸ばしていきたいこと、改善していきたいことに取り組む方法について考えることができた。また、令和7年3月31日に「公開保育を活用した幼児教育の質向上システム(ECEQ)」実施園である二度目の認定証をいただいた。(文責：吉田朋美)

2)みのり会

令和6年度(2024)子供の読書活動優秀実践園文部科学大臣表彰受賞 令和6年(2024)4月23日

園以来続くみのり文庫を活用した、保護者による毎週の絵本の貸し出しと読み聞かせ活動や、降園児の担任による読み聞かせ活動。併せて、図書カードで一人ひとりの読書活動の記録が残っていることなどが高く評価され、大臣表彰につながった。なお、幼稚園、子ども園等が対象になったのは、令和6年度(2024)からであり、仁愛幼稚園が県内初の受賞園となった。

3)その他

私学助成園から施設型給付の幼稚園に

令和に入り急激な園児減少を受け、令和6度末(2024)をもって私学助成園から施設型給付幼稚園への制度変更となった。

9 同窓会

1) 同窓会の歩み

仁愛女子短期大学同窓会「六和会」は、昭和42年(1967)に「相互の親睦を厚く、且つ母校の発展に寄与する」ことを目的に創設され、会員86名からスタートした。

総会は2年に1度活動報告・決算報告・活動計画・予算案の審議の他、役員の改選、会則の改正審議をする他、会員の親睦を図る場として福井で開催していた。令和元年(2019)の会則改正により通常総会は年1回開催すると定められた。関西支部では結成以来、隔年で同窓会を開催してきた実績があり、これらを踏まえ、福井と関西地区で交互に開催することとなった。役員会は随時開催し、活動についての企画・提案・運営を行っている。

六和会会報は毎年8月に1回発行し、学長先生からのメッセージや同窓生の活躍、総会案内及び報告、短期大学の近況報告などを掲載している。

会員名簿の維持と管理については、六和会会報を発送する際に「住所・氏名変更届」のハガキを同封し、会員の届け出などにより住所・氏名の確認を行っていたが、六和会ホームページリニューアルにより、令和5年(2023)からはホームページより変更届けを受け付けるようにした。

① 関西支部

昭和62年(1987)7月、京都平安会館にて、全国へ六和会の輪を広げたいという願いをもとに、まずは関西支部の結成に向けた「関西地区親睦会」を開催した。

支部長に第1回卒業生の松村由美子氏、その他7人の役員を選出、出席者全員の賛同を得て六和会関西支部結成の足掛かりをつけた。

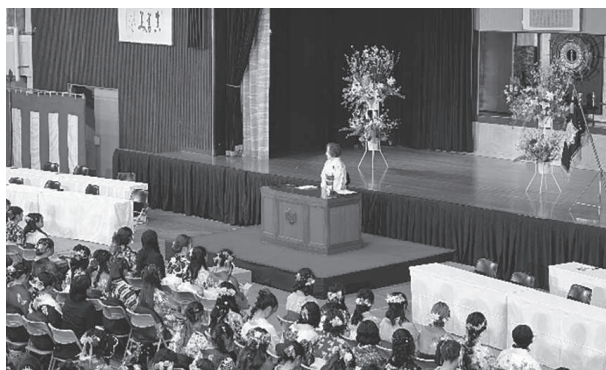
昭和63年(1988)10月、京都の料亭「大和」にて、当時の学長禿了滉先生をはじめ、本学教員・六和会会長と役員が出席し、関西地区(京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県・三重県・滋賀県の2府5県)の会員が集い、盛大に結成式が行われ

た。その後、2年毎に支部会が開催された。

② 同窓会入会式

同窓会「六和会」への入会式は、卒業式後に行われる仁愛女子短期大学「学生会」主催の卒業パーティーにて行われていたが、令和6年度(2024)より、卒業式終了直後の同会場にて実施することに変更し、六和会会長が卒業生とその保護者に対して、六和会入会の歓迎の言葉と共に、「六和会入会のしおり」と記念品を贈呈している。

現在の会員は、21,000名を超えて、国内はもとより海外においても活躍の場が広がっている。



卒業式終了直後の入会式

2) 近10年の活動

① 短期大学開学50周年記念事業への協力

ア 平成27年(2015)10月23日(金)に、仁愛女子短期大学開学50周年事業への協力として、六和会主催による音楽学科卒業生による「第21回くらいすコンサート」を開催した。



第21回くらいすコンサート

イ 10月24日(土)、フェニックスプラザ地下会議室にて仁愛女子短期大学開学50周年記念六和会総会を開催し、総会後禿了滉学園長先生の記念講話「生きているということは」を拝聴した。



禿了滉学園長先生の記念講話

ウ 仁愛女子短期大学開学50周年記念事業として進められていた建学の精神モニュメント「仁愛兼済」の建設費のための寄付金募集を実施した。2年にまたがる長期の募集活動だったが、会員の協力により多額の寄付金を集めることができた。六和会からの寄付金と合わせ24,677,000円を仁愛女子短期大学へ贈呈した。



開学50周年記念モニュメント「仁愛兼済」

② 六和会創設50周年記念事業

ア ホームカミングディ

平成29年(2017)10月14日(土)仁愛女子短期大学仁短祭で、春に完成した新しいキャンパスを見学するキャンパスツアーを盛り込んだ、ホームカミングディを実施した。

イ 六和会50周年記念式典・祝賀会

10月21日(土)ザ・グランユアーズフクイ3F 天山の間で、同窓生や歴代の教職員あわせて約220名の参加があり、盛大に開催することができた。



六和会創設50周年記念式典・祝賀会

ウ 記念講演会

10月22日(日)仁愛女子短期大学体育館で、金田一秀穂氏をお招きして、記念講演会「日本一受けたい日本語授業」を入場無料で一般に開放し開催した。台風接近の悪天候にもかかわらず300名の参加者があった。



金田一秀穂氏による記念講演会

エ 記念誌発刊

禿了滉学園長著『六和と世灯ー折々の記ー』と『六和会創設50周年記念誌』を発刊した。



禿了滉学園長著『六和と世灯ー折々の記ー』
『六和会創設50周年記念誌』

オ 六和会シンボルマークの制作

50周年を記念して六和会シンボルマークの制作を企画した。会員・学生を対象に図案の募集を行い、多数の応募があった。短大教授や六和会役員にて厳正に審査した結果、下垣亜梨沙さん(平成25年(2013)生活科学学科卒業)の作品が選出された。



六和会のシンボルマーク

③ コロナ禍での六和会活動

令和2年(2020)2月18日(火)にご逝去された禿了滉学園長先生の特集記事を六和会会報 Vol.50に掲載し、心より追悼申し上げた。

令和2年度(2020)は新型コロナウイルス感染防止のため役員会等はオンラインで情報交換を行い、関西地区で開催予定だった六和会総会はやむなく中止した。

令和3年度(2021)六和会総会も、9月18日(土)仁愛女子短期大学にて開催予定で準備を進めていたが、新型コロナウイルスの全国的な感染状況の悪化や緊急事態宣言の延長のため中止とした。

2020年から2022年は六和会の活動が制限された。



オンラインでの会報編集会議

④ 六和会会長の交代

令和3年(2021)3月、45年間の長きに渡り六和会発展のためご尽力された第4代会長・渡邊友子氏が退任された。4月より5代会長に大久保郁子氏(昭和47年卒)が就任された。



前六和会会長 渡邊氏

⑤ 六和会会報等のデジタル化

令和5年度(2023)は、ウェブサイトでの情報発信に力を入れていくこととなった。

ホームページのリニューアルに伴い、卒業後20年以上経過されている同窓生の方には、会報の送付を申し込み制とした。

会報は、六和会ホームページよりデジタルブック版(またはPDF版)をスマホやタブレットから読むことが出来るようにデジタル化を図った。

また、令和6年度(2024)からインスタグラムで六和会の情報発信を開始した。

⑥ 関西支部長の交代

令和6年(2024)4月、平成21年(2009)から15年もの間、関西支部長としてご尽力いただいた吉本富美子氏に代わり、右谷久枝氏(昭和45年(1967)卒)が新支部長に就任された。



前関西支部長 吉本氏



新関西支部長 右谷氏

⑦ 能登半島地震への寄付

令和6年(2024)元日に能登半島地震が発生した。被災された方の平穏な日常が一日も早く戻ることを願い、六和会として令和6年(2024)2月21日に日本赤十字社福井県支部を通じて「令和6年能登半島地震災害義援金」10万円を寄付した。

⑧ “くrais”からの寄付

“くrais”は、仁愛女子短期大学音楽学科卒業生の会・福井支部として発足し、40年余り演奏活動を中心に多様な活動を展開してきたが、令和3年(2021)9月18日(土)の「くraisファイナルコンサート」をもって事業を終了した。事業終了にあたり六和会に20万円の寄付の申し出があり、令和6年(2024)3月17日(日)の六和会役員会で、“くrais”代表の片山明子氏から大久保郁子会長に寄付金の目録贈呈が行われた。この寄付金は、六和会の今後の活動で有効に活用させていただく予定である。



くrais代表の片山氏から大久保会長へ

⑨ 栄養士養成課程同窓会

令和6年(2024)11月16日(土)「栄養士養成課程同窓会」を仁愛女子短期大学にて開催された。

昭和44年(1969)より55年余り続いた食物栄養専攻栄養士養成課程が、令和7年(2025)3月末をもって長い歴史に幕を閉じることとなった。その間、栄養士養成課程卒業生は2,624名、栄養士免許取得者は2,555名(令和7年(2025)3月現在)に上る。

当日は恩師の先生方9名のご出席を頂き、121名の参加者と共に今後も同窓生同士が交流を深め、活躍の場を広げることを誓い合い友好を深めた。



栄養士養成課程同窓会の集合写真

3) 六和会の支援事業

① 活動室「しおん」

六和会コミュニケーションルーム「しおん」は、平成22年(2010)5月に開設された。学生からの「同窓会の先輩たちと交流できる場を設けて欲しい」とう提案に加え、会員からは「いつでも母校に出入りでき、学内で自由に使える場所が欲しい」といった要望に対して、大学からご配慮を頂き活動室「しおん」が実現した。会員の知的・人的資源を生かし、地域の方々や学生たちと連携していく活動の拠点となるよう努めている。

現在は、同窓生をはじめ学生・地域の皆さんが集い、ポーセラーツ・押し花教室の他、洋裁・手芸・バッグ作りや学習会などを行っている。

「しおん」の名称は「四つの恩」の四恩と「六和会・短大・学生・地域の四つが響き合う」という意味の四音を意味している。



「しおん」の利用風景：ポーセラーツ教室

② ヨガ教室

F館のダンススタジオにて、毎月2回(18:30～19:30)開催している。

対象は、仁愛女子短期大学の同窓生をはじめ、在学生、教職員、そして森田地区の方々である。

③ 仁短祭への参加

平成22(2010)年に開催された大学祭(仁短祭)から同窓会コーナーを設けている。

会員が制作した押し花・ポーセラーツ・藍染・書道・絵画・手芸などの展示やワークショップの他、会員手づくりの作品の展示即売会を行っている。

令和6年(2024)10月には、F館で毎月2回実施している六和会主催の「ヨガ教室」の体験やお抹茶席の体験会を開催し、仁短祭に積極的に参加している。



令和6年(2024)10月 ヨガ体験会



令和6年(2024)10月 お抹茶体験会

4) 六和会後援活動

六和会では、仁愛女子短期大学の発展に寄与することを目的とする活動に対し後援事業を行っている。

令和6年度(2024)に後援した事業は「絵とフルートの演奏会」、「辻友美ソプラノリサイタル」である。



「絵とフルートの演奏会」

5) 会の充実と展望

仁愛女子短期大学で学び、社会の様々な場面で活躍されている卒業生約2万名と母校とのパイプ役が「六和会」の役割である。10代最後の学び舎を懐かしく思い出しながら、社会のどこかで同窓生のつながりを感じていただく、そして、仁愛短大の同窓生であることを誇りに思える…そのような「六和会」の存在が重要ではないかと考える。

六和会では今後も、ウェブサイトや、SNSを活用して卒業生の活躍や、楽しく豊かで役に立つ情報を発信していく方針である。あわせて、卒業生の活躍を支援・後援する事業の充実にも努めていきたい。また、在学生の生活支援にも力を注いでいく所存である。

近10年の総会

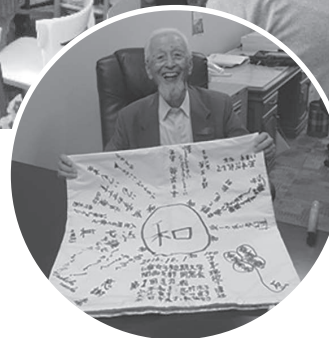


2015年度総会
仁愛女子短期大学開学50周年記念六和会総会



2016年度総会
京都「京野菜レストラン」にて

2016年度の総会出席者が寄せ書きした座布団カバーと学園長先生





2017年度総会 ザ・グランユアーズフクイにて



2022年度総会 仁愛女子短期大学にて



2018年度総会 京都「長楽館」にて



2023年度総会「ホテル日航プリンス京都」にて



2019年度総会 仁愛女子短期大学にて



2024年度総会「コートヤード・バイ・マリオット福岡」にて

表1 六和会総会

年度	日程	場 所	参加人数
2015年度	10月24日	フェニックスプラザ 地下会議室	100名
2016年度	10月1日	京都「京野菜レストラン」	27名
2017年度	10月14日	ザ・グランユアーズフクイ	85名
2018年度	11月17日	京都「長楽館」	30名
2019年度	10月5日	仁愛女子短期大学	42名
2020年度		新型コロナ感染防止のため中止	
2021年度		新型コロナ感染防止のため中止	
2022年度	10月29日	仁愛女子短期大学	55名
2023年度	10月28日	京都「ホテル日航プリンス京都」	36名
2024年度	11月23日	コートヤード・バイ・マリオット福岡	43名

【現役員】

令和7年(2025)4月1日現在

顧問／渡邊 友子、北村 涼子

会長／大久保郁子

副会長／寺崎美智江、山口 恵子、片山 明子、熊木 雅代

幹事／木戸 公恵

会計／河合 紀子、竹下 真弓

会計監事／平木美紀子、松島 和代

書記／宮澤 絹子、佐々木美佳

事務局／中道 公代

理事／青木さゑ子、岩田喜代美、木内 貴子、小角 佳子、坂本美智世、高橋多佳子、龍谿志穂美、伏木 直美、山下 清美、山本 瑞恵、吉田 朋美

関西支部長／右谷 久枝

関西副支部長／浅見 理絵

(文責：大久保郁子)